

平成24年度 文部科学省委託事業

「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」

—地域における効果的なネットワーク化・人材養成手法の開発—

地域人材の育成とeパスポートによる地域人材活用

ネットワーク形成事業

実証的共同研究報告書

平成25年3月

地域eパスポート研究協議会

目次

1 調査研究の目的と概要	1
1-1 調査研究の背景.....	1
1-2 富山県内における地域人材の育成・活用の現状と課題.....	3
1-3 調査研究の目的.....	4
1-4 今年度の目標	6
2 実証的共同研究の実施	7
2-1 実施の概要.....	7
2-2 具体的なプログラム内容.....	9
2-3 システム開発	35
3 実証研究の評価	39
3-1 生涯学習・社会教育における地域人材の育成と評価の動向.....	39
3-2 ショーケースと地域人材ポータルサイトによる人材マッチング	
3-3 地域人材活用ネットワーク事業の社会教育的評価	
4 今後に向けて.....	42
4-1 公民館を活動の拠点とする地域人材に対するフォロー	42
4-2 社会教育の拠点となる公民館と地域人材の今後の役割.....	43

1 調査研究の目的と概要

1-1 調査研究の背景

(1) 社会教育・生涯学習の推進を中核的に担う県民カレッジでは、平成 22 年度から、地域住民を対象に、地域の文化や風土、伝承などの理解や情報収集を行い、地域や県民カレッジにて生涯学習講座の講師や地域活動の支援を行う「ふるさと学習指導者」の育成を行っている。この取り組みで養成されたふるさと学習指導者は、県民カレッジで講師として活躍するだけでなく、一部、公民館での社会教育活動にもたずさわり、公民館活動の裾野を広げることに役立っているが、育成した人材による地域での活動に必ずしも結びついていないのが現状である。今後、県民カレッジが養成したふるさと学習指導者の能力を、公民館をはじめとした地域の中で生かすためには、公民館として求めている人材ニーズの把握と、人材ニーズに基づいたふるさと学習指導者の育成カリキュラムの開発、実施が課題である。

また、前述のように、公民館は活動の活性化や参加者のすそ野を広げるためにも、とやま公民館学遊ネットを通じた地域住民に対する広報のほか、地域活動の実績を持つ地域人材の公民館活動への参加が求められている。

これまで、県民カレッジでは、生涯学習講座に参加した受講者の参加実績について、受講者にカレッジ・カードを配布し、参加実績の記録をしてきた。このカレッジ・カードの仕組みは、受講者に対し、学習を継続していくことやさまざまな分野の学習を修めることを促すために有効であったが、学習歴や学習の成果を生かす仕組みとしてはあまり機能しなかった。その理由としては、蓄積された学習歴や成果に対し、受講者がどの程度の能力を持つのかについて、認定が行われてこなかったことがあげられる。受講者の学習歴や成果を生かすためには、その人材を受け入れ活用するための仕組みが必要であり、その仕組みの一つが能力認定である。また、人材を受け入れ活用する側に対して、受講者の実績や能力に基づき、人材のマッチングを行う仕組みもなかったことから、受講者は、自身で活動の場を求める以外に、人材を求めている側も、ニーズにマッチした人材が地域に存在するのか把握することができなかった。

(2) インターネット市民塾では昨年度、ICT ふるさと学習推進員、e メンタの養成とその認定に、e ポートフォリオとショーケースを活用することで、学習の記録や実績をエビデンスとしたより信頼性の高い人材評価と地域人材の認定を行うことができた。ポートフォリオやショーケースの作成過程では、e メンタが関わることで、参加者の学習の振り返りや自己評価に効果がみられ、質の高いショーケース作りにつながったものと考えられる。また、ICT を活用した情報発信の技術修得や、著作権等、情報発信の際に欠かすことが出来ない法の理解やモラルについての学習を深めた。インターネット市民塾では、養成した人材が地域活動に取り組み始めている状況にある。今後、公民館等、地域人材を必要とする側に、養成した地域人材を紹介、斡旋する仕組みを確立することが課題である。

(3) 県民カレッジと公民館は、富山県内の公民館によるインターネットを利用した情報発信の仕組みとして、とやま公民館学遊ネットを平成 23 年度より運営している。とやま公民館学遊ネットでは、公民館で行われている学習活動の様子や社会教育の取り組みについて、地域の各公

民館が、インターネットによる情報発信を行い、地域住民に対する公民館活動の理解と参加を促している。現在も、公民館からの情報発信が盛んに行われているが、公民館職員が主体となった取り組みのため、マンパワーの不足しがちな公民館の現場では、地域住民の関心をよぶ、地域住民の目線でのコンテンツを発信していくことに困難を感じている。また、職員の ICT リテラシも十分ではない状況にあり、公民館が継続的にコンテンツを発信するためには、職員に対する ICT 支援も必要と考えられる。

また、公民館では様々な社会教育事業が行われているが、事業に参加する地域住民や事業を支援する人材は、年々、固定化しており、新しい参加者や人材を獲得できない状況にある。そのため、事業の継続や活性化も難しい状況にあり、新しい参加者や人材を獲得することが課題となっている。公民館の社会教育事業を行う上での課題を解決するために、とやま公民館学遊ネットを通して、今まで公民館がアクセスできなかった地域住民に公民館を知ってもらう広報活動を充実化することに加え、地域内で独自に活動の実績をあげてきたが、公民館と接触のなかった地域人材を公民館活動に巻き込むことが必要と考えられる。地域で実績をあげてきた地域人材を公民館活動に巻き込むためには、公民館として、地域人材がどのような能力をもち、地域活動に貢献できるのか把握できる仕組みが必要である。

以上のように、地域活動に貢献する地域人材の育成は、県民カレッジ、市民塾以外にも様々な社会教育や生涯学習の場においてこれまでも行われてきたが、地域活動の現場にて、育成した地域人材が必ずしも十分活躍できていない状況であった。

その原因として、①地域人材を育成する場と、地域人材が活躍する場がつながっておらず、育成した地域人材についての情報が、公民館等、地域人材が活躍する場と共有する仕組みがなかったこと、②現場のニーズに合致した地域人材を、それぞれの施設が育成しきれていないこと、③個が自らの学びの積み重ねを振り返り、自己評価と他者からのアドバイスを得て、地域活動に役立つビジョンを作る力を養成することに十分目を向けてこなかったことが考えられる。

現場のニーズに合致した地域人材を育成するためにも、人材を育成する施設同士がそれぞれ得意とすることをもち寄り、補いながら、質の高い人材の育成に努めるべきである。インターネット市民塾では、昨年度、ICT ふるさと学習推進員、eメンタの養成に、eポートフォリオとショーケースの活用を行った。eポートフォリオとは、学習者の主体的な学習を支援するため、自らの学習や社会活動とその成果を継続的に記録し、自己評価を行う仕組みであり、ショーケースとは、eポートフォリオの記録をもとに、学習の成果と自己の能力について、社会に対し PR するための仕組みである。eポートフォリオの活用の効果として、学習や地域活動の記録の蓄積と実績の登録、他者評価を通じて、自己の能力に対する振り返りと自己評価がより深まり、学習に対する意欲や継続性に有効であることが明らかとなった。また、ショーケースを活用することで、学習の成果を地域課題や身の回りの活動に対してどのように役立つかについて考えを深め、自己の学びを地域活動や第三者の視点で客観的に評価することにつながった。このように、地域活動を支える質の高い人材の育成に eポートフォリオとショーケースの活用は効果が高いことから、地域人材の育成の場での eポートフォリオ、ショーケースの活用を進めていくことが重要である。

また、育成した地域人材についての情報を、地域人材が活躍する公民館等の現場に伝えるためには、地域人材がどのような能力をもち、地域活動に貢献できるのか等の人材情報を広く共有し、地域人材の情報をもとに、人材を求める側と地域人材とをマッチングする仕組みが必要である。

現在、県民カレッジと市民塾とでは、人材情報が個別に記録、管理され、情報の形式も異なっている。そこで、地域人材の情報をできるだけ多く関係機関に提供するためにも、人材情報を地域 e パスポートの形式で統一することを目指し、ワンストップで地域人材の検索、照会を行うことができる地域人材情報ポータルサイトを構築し、広く人材情報を共有化することが重要である。時間や場所の制約を受けることなく人材を検索できる仕組みを構築できれば、人材を求める側にとっての利便性が高まり、登録された地域人材の発掘にも有効である。

共有した人材情報は、地域 e パスポートの形式での統一を目指すほか、人材情報に対する信頼性を高めるためには、社会教育や生涯学習の専門家による厳正な認定が求められる。ショーケースをもとに認定を行うことで、活動や学習の記録、活動実績などのエビデンスに基づいたより客観性、信頼性の高い人材評価を行うことができる。また、厳正な認定を行ったことを、教育委員会や社会教育機関を含めた地域が一体となって保証することで、人材や人材の持つ能力に対する社会的な通用性が増すことが期待される。

地域人材情報ポータルサイトと地域 e パスポートによる人材マッチングに加え、地域 e パスポートの認定を受けた地域人材が地域の公民館や生涯学習施設等で、人材の能力を生かした活躍の機会が設けられるよう、公民館や生涯学習施設のニーズと、個々の人材の特性に応じた地域人材の紹介、斡旋も併せて行うことで、人材マッチングの効果が高まる。

1-2 富山県内における地域人材の育成・活用の現状と課題

富山県内における地域人材の育成と活用について、教育行政の視点で、現状と課題について述べる。

富山県では、地域社会への帰属意識の希薄化や住民交流の機会の減少が進行する一方で、優れたふるさとの歴史や文化を認識していない県民が思いのほか多く、地域コミュニティの活力衰退等が懸念されている。このため、県では、地域の魅力に関する学びの機会をとおして、ふるさとへの愛着と誇りを育み、将来を担い、活躍する地域人材を育成し、活力あるふるさとづくりを進めるため、学校・家庭・地域等を含めた県民運動として「ふるさと教育」を展開している。

平成 21 年度、県の知事政策局と教育委員会が設置した「ふるさと教育有識者懇談会」が、平成 22 年 2 月に提出した「ふるさと教育の振興に関する報告書」では、ふるさと教育の振興を図る具体的方策の一つとして、「ICTを活用してふるさとの歴史や文化を学び、親しむ」が挙げられており、ICTを活用したふるさと学習を支援する地域人材育成の重要性が提案された。

平成 21 年度末から、総務省地域情報通信技術利活用推進交付金事業として、県と富山県ひとづくり財団が主体となり、「ICTを活用した地域ぐるみのふるさと教育と人の交流推進事業」が開始された。富山インターネット市民塾を基盤に、インターネットとパソコンやケーブルテレビ、携帯電話等の ICT を活用した、「いつでも・どこでも・誰でも」自分に合った学習等を可能とする「富山型地域ぐるみのふるさと教育とプラットフォーム」というしくみの構築とともに、ふる

さとを伝え・支える地域人材として、「県民ふるさと講師」と「住民ディレクター」の育成が、この事業の柱となっていた。

上記の事業の継承事業として、平成 22 年度から 24 年度まで、県教育委員会が富山インターネット市民塾に委託し、「ICT活用ふるさと学習コミュニティ活性化事業」を実施しており、地域人材「ふるさと学習推進員」を育成している。

これらの事業のほか、ICT活用に特化した人材育成事業ではないが、富山県民生涯学習カレッジでは、平成 19 年度から 21 年度まで、団塊、シニア世代を対象に、県民の学習活動を支えるボランティア指導者の発掘・育成とともに、市町村と連携協力し、県民の生涯学習参画や社会貢献を支援する地域人材を育成する「はつらつ学びのリーダー育成事業」を実施してきたところである。この他に、富山県社会福祉協議会にて「脳トレリーダー養成講座」、南砺市にて「ナチュラルリスト養成講座」など 各機関・自治体がそれぞれの立場で地域人材の育成を実施している。

加えて、県民生涯学習カレッジでは、前述の「ふるさと教育」の一環として、平成 22 年度から、ふるさと教育を推進する生涯学習団体等の指導者を育成するとともに、地域住民が身近なふるさとについて学びあう自主的な学習を推進することを趣旨とした「ふるさと学びあい推進事業」を展開している。

このように、富山県では、地域人材を育成する事業を継続してきており、育成講座の修了者の中には、富山インターネット市民塾、県民生涯学習カレッジ、公民館等で講座を担当するほか、講演会講師、団体サークル主宰、施設ボランティアとして活動している者がいるが、実際の活動に展開するための支援が不十分なこともあり、講座の受講・修了でとどまっている状況がある。自らの活躍の機会を自発的に創出していこうという意欲を湧かせることが課題である。今後、こうした地域人材に関する情報をまとめ、これらの機関・自治体が連携し、情報を共有化することで、講座の企画や実施、講座修了者の活用などでメリットが生じると考えられる。

1-3 調査研究の目的

本実証的共同研究は、先にあげた課題と以下の2つの目的を達成するために、富山県内の社会教育、生涯学習関係施設が研究協議会をつくり、「人材情報の共有化」と「地域ぐるみの認証体制の確立」を通して、社会教育、生涯学習にて育成した地域人材の活用の促進を図ることを目的とする。

- ・ 既存の様々な地域人材を育成する取り組みのネットワーク化
- ・ 地域人材の学習成果を地域で生かすためのネットワーク化

(1) 地域人材を育成する既存の様々な取り組みのネットワーク化

本実証的共同研究では、先述した、地域人材の育成に取り組んできた県民カレッジ、インターネット市民塾の課題と、富山県内の公民館の課題の解決を行うため、既存の地域人材育成、社会教育事業のレベルアップと相互連携を図り、公民館、学校等にて地域人材の活用を行うことができるよう、人材育成のネットワーク化を図る。

(2) 地域人材の学習成果を地域で生かすためのネットワーク化

育成した「ICT ふるさと学習推進員」や「情報サポーター」が、公民館、学校等の地域のさまざまな場で地域人材として生かされるよう、育成機関と人材活用を行う公民館が連携し、活動を支援するネットワーク化を図る。

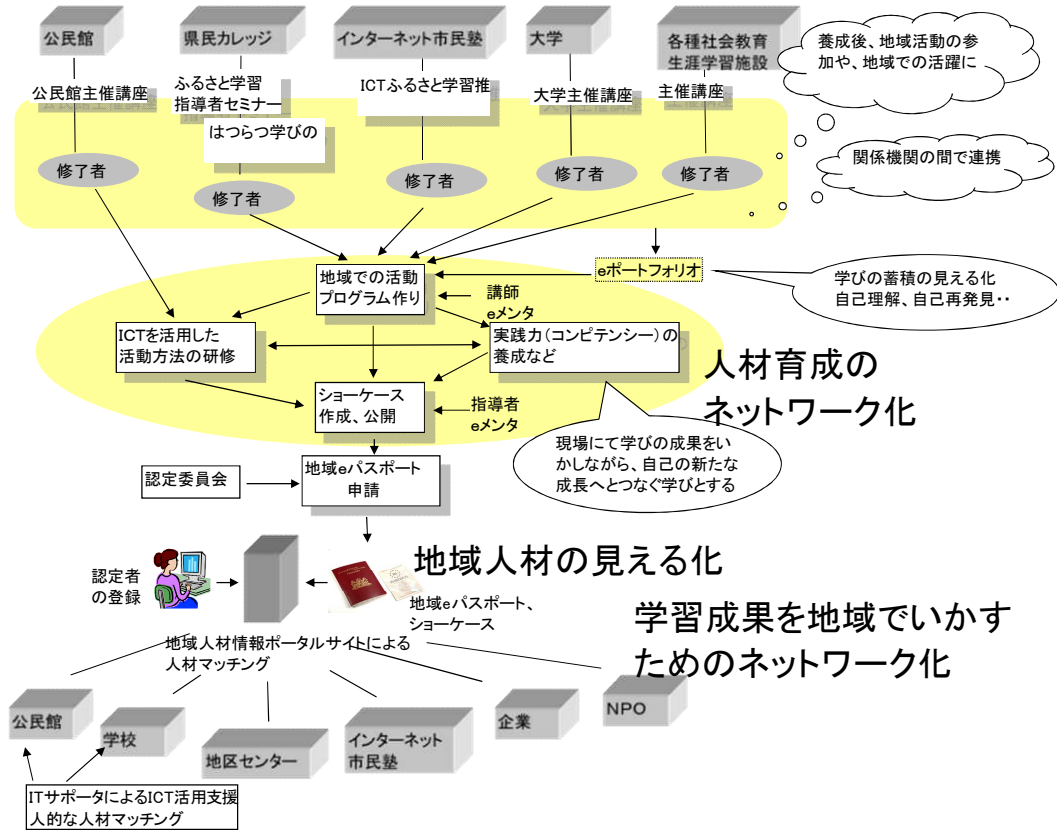


図 1 実施イメージ

今まで個別に人材育成を行っていた社会教育、生涯学習が連携し、人材育成において e ポートフォリオとショーケースの活用を行うことで、地域活動を通して地域課題の解決に資する能力をもち、課題解決への参画意欲の高い人材の育成に効果を上げることが期待される。

特に、人材育成に e ポートフォリオとショーケースを活用することで、自己の能力に対する振り返りと自己評価がより深まり、学習の成果を地域課題や身の回りの活動に対してどのように役立つかについて考え、地域活動に役立てるビジョンをもつ社会教育、生涯学習の推進人材の育成につながるものとする。

また、地域人材情報ポータルサイトによる人材情報の提供と、地域 e パスポートの形式での人材情報の統一化を目指すことにより、人材を求める側にとっての利便性が高まるだけでなく、すぐれた地域人材の発掘と、地域活動との人材マッチングに有効に機能すると考えられる。同時に、社会教育や生涯学習の専門家による厳正な認定を行い、教育委員会や社会教育機関を含めた地域が一体となって保証することで、人材情報に対する信頼性を高めるとともに、人材や人材の持つ能力に対する社会的な通用性が増すことが期待される。

今後、本実証的共同研究での取り組みを発展させ、県民カレッジやインターネット市民塾、公民館や学校以外にも、富山県内における社会教育、生涯学習の拠点やNPO、地域活動等をつなぎ、eポートフォリオ、ショーケース、地域人材を認定するeパスポートを活用しながら、さまざまな種類の地域課題に対応できる地域ぐるみの人材育成と、人材活用の取り組みとしてモデル化し、全国への普及に資することを目的とする。

1-4 今年度の目標

本実証的共同研究では、地域人材を育成する取り組みのネットワーク化と、地域人材の学習成果を地域で生かすためのネットワーク化を行い、以下の検証、評価を行うことを目標とする。

(1) 人材育成のネットワーク化に関する評価

- ・ さまざまな学習機会を通じて蓄積してきた学習成果を振り返り、ふるさと学習等にどのように生かすかを考え、第三者に説明するショーケース作成の効果について
- ・ さまざまな学習機会を通じて蓄積してきた学習成果を、地域人材として地域で定めた共通の評価基準によって認定し、地域eパスポートとして発給することによる、社会的な通用性を高める効果について。

(2) 地域人材の学習成果を生かすためのネットワーク化に関する評価

- ・ 地域人材情報ポータルサイトで提供する人材情報一元化の有効性と活用の効果について
- ・ 地域人材情報ポータルサイトを活用することにより、多様な機関から、地域eサポートを通じた学習成果の記録や、活動の目標などのショーケースが参照できることによる人材マッチングと、ふるさと学習に資する人材活用の有効性について

2 実証的共同研究の実施

2-1 実施の概要

地域活動に貢献する地域人材の育成は、様々な社会教育や生涯学習の場においてこれまでも行われてきたが、地域活動の現場にて、育成した地域人材が必ずしも十分活躍できていない状況であった。こうした課題への対応を行うため、本実証的共同研究は、以下の2つの目的を立て、富山県内の社会教育、生涯学習関係機関が研究協議会をつくり、「人材情報の共有化」と「地域ぐるみの認証体制の確立」を通して、社会教育、生涯学習にて育成した地域人材の活用の促進を行った。

- ・地域人材を育成する既存の社会教育事業のネットワーク化
- ・地域人材の学習成果を地域で生かすためのネットワーク化

(1) 地域人材を育成する既存の社会教育事業のネットワーク化

本実証的共同研究では、地域人材を育成する既存の社会教育事業の相互連携を図り、育成後の活用が公民館、学校等で促進され、地域活動がレベルアップすることがねらいである。本実証的共同研究では、富山県民生涯学習カレッジ、地域の公民館、富山インターネット市民塾のそれぞれで受け入れている学習者、地域活動実践志望者、活動支援人材を対象に、育成受け入れのネットワーク化を図り、地域活動の実践に結びつく育成研修を実施した。

地域活動実践研修では、これまで育成後に活動に結びついてこなかった理由を検討し、実践の場としての公民館、学校、地区センター、インターネット市民塾の、それぞれの機関より講師を招聘し、育成講座を開発した。公民館での活動の状況や課題については、富山県公民館連合会より、学校や地区センターの状況や課題、ニーズについては、各機関を経験した小学校長より、現場の視点で学ぶ内容とした。

活動の広がりや活動成果の発信力の課題については、インターネットを利用した学習活動を広げている富山インターネット市民塾の専門講師により、ICTを効果的に活用する考え方やWebコンテンツの制作に結びつく実践力の育成を行った。

富山県内の全公民館がホームページを持ち、地域の活動を発信する「公民館学遊ネット」について、このシステムを運用する富山県民生涯学習カレッジより活用方法の研修を盛り込んでいる。

これらの研修プログラムは、富山県がふるさと教育を進める人材育成事業として、富山インターネット市民塾を通じて実施している「ICTを活用したふるさと学習推進員認定講座」に盛り込む形で開発した。

育成研修の受講者には、自らの学習成果や活動の実践を振り返り、地域での活動にどのように役立てるかを考える機会を重視し、そのツールとしてeポートフォリオの活用を促した。また、一人ひとりが検討した活動プランと、その背景とした学習成果や活動実績を、活動の場に分かりやすく示すため、ショーケースの作成を行った。これらのeポートフォリオ、ショーケースの活

用については、平成 22 年度から取り組まれてきた「一人ひとりの e ポートフォリオが社会に活かされる学習基盤の構築に関する調査研究」事業の成果を生かし、活用システムや e メンタによる活用支援体制を盛り込んだ。

これらの地域活動志望者の育成プログラムと合わせて、地域での活動実践を支援する公民館職員に向けて、公民館学遊ネットを活用したコンテンツの授受や Web ページ管理方法情報発信を活発に行うことを目的とした ICT 研修を実施した。また、ICT の効果的な活用を得意とする人材を情報サポーターとして養成し、公民館等の実践現場での活用を側面から支援することとした。

(2) 地域人材の学習成果を地域で生かすためのネットワーク化

本実証的共同研究で育成した地域人材が、さまざまな形で地域の活動に活かされるよう、地域人材の認定のネットワーク化、関係機関での情報の共有、マッチングのためのネットワーク化に取り組んだ。

地域人材の認定のネットワーク化については、活動の場である公民館、学校、地区センター、インターネット市民塾等の各機関および大学から構成する評価・認定機構を設置し、実践志望者がショーケースを通じて示す、活動プランやその背景とした学習成果、活動実績等の評価した。地域人材として認定した者には、これらの関係機関がともに認め合う印として、地域 e パスポートを発行している。

地域人材に関する情報の共有化については、富山県の社会教育・生涯学習に関する指導者や支援人材の情報を総合的に取りまとめ、データベースとして運営している富山県民生涯学習カレッジの人材データベースに登録するとともに、地域人材ポータルサイトにリンクし、地域人材一人ひとりのショーケースを通じて、活動プランや実績を映像情報などを活用して分かりやすく示すこととした。

富山県民生涯学習カレッジでは、これらの人材情報データベースの運用と合わせて、公民館等からのさまざまな相談業務を行っており、その中で育成した地域人材の紹介を行うことを可能とした。また、県内公民館 320 館に、これらの情報活用について周知を進めているところである。

地域人材のマッチングについては、実践志望者の相談窓口を富山県民生涯学習カレッジ、富山県公民館連合会、富山インターネット市民塾の 3 機関に設置した。地域 e パスポートを所持しているものには、記載されているキーコードをもとに、それぞれのショーケースを通じて従来にはない、映像などを通じた詳細な人材情報を確認することができ、実践への紹介の効果を高めるものとした。

上記の相談窓口の担当者によるメーリングリストを開設し、これらの相談情報や、公民館等の求人情報を共有する、活動支援のネットワーク化を図った。

2-2 具体的なプログラム内容

2-2-1 人材育成プログラム

人材育成プログラムは、以下の5つの研修・指導により構成した。

- ・ 地域活動実践研修
- ・ ショーケース作成指導
- ・ ショーケース作成指導者研修
- ・ 情報サポーター研修
- ・ 公民館職員向け ICT 活用研修

(1) 地域活動実践研修

この地域活動実践研修は、富山県主催の ICT ふるさと学習推進員認定講座のカリキュラムの中に組み込み実施した。ICT ふるさと学習推進員認定講座は、第一期（平成24年6～8月）第二期（平成24年12月～平成25年1月）で開催されており、それぞれで地域活動実践研修を実施した。第一期では、ICT ふるさと学習推進員認定講座の最終回に、地域活動実践研修を組み込んだ。第二期では、第三回のスクーリングとして地域活動実践研修を組み込んだ（詳細は、次ページ以降の ICT ふるさと学習推進員認定講座カリキュラムを参照）。

受講者：第一期8名、第二期3名

講師：山本一弘氏（砺波市立鷹栖小学校）／中村啓志氏（富山県公民館連合会）

実施内容：それぞれの機関で養成コースを修了した市民が、地域に出て活動を始めるにあたって、さまざまな活動やその価値観、活動の方法、活動の際に留意すべきこと（例、学校での制限事項等）など、基本的なことを学んだ。

【第一期 ICT ふるさと学習推進員認定講座カリキュラム】

日程	スクーリング内容		
	写真と動画を学ぶ	インターネットに慣れ親しむ	活動目標を立てる
申込～開講まで			<input type="checkbox"/> 活動交流会ワークシート・アンケート郵送配布 ※第2回スクーリングでお渡しするポートフォリオワークシートへ繋がるワークシートです。
第1回オリエンテーション & スクーリング (時間数:2.5H) 6/28(木) 18:00～20:30	■開講式 ■写真の加工を知る		<input type="checkbox"/> 活動交流会ワークシート発表 <input type="checkbox"/> ポートフォリオワークシート配布 (第6回目までに完成させて下さい。)
第2回 スクーリング (事務局0.5H) (講師:高緑利江氏2H) (時間数:2.5H) 7/4(水) 18:00～20:30	■写真の加工を体験 (補正・トリミング・GIFアニメ・リサイズを学ぶ。) <input type="checkbox"/> すじだてシート配布 (次回の簡単な動画製作のためのワークシートを作成して下さい。)		■市民塾の活用法1 (講座の目的と認定について知る。ポートフォリオワークシートの書き方の説明を行う。)
STEP1在宅学習 2週間 7/5(木)～7/18(水)	■ICTふるさと学習推進員とは (メディア・インターネットのメリットについて学ぶ。)		学習や活動の記録をポートフォリオワークシートに記入して下さい。自分を振り返りながら目標を考え、取り組みなどを記入できる所から記入して下さい。
第3回 スクーリング (事務局0.5H) (講師:高緑利江氏1.5H) (時間数:2H) 7/19(木) 18:30～20:30	<input type="checkbox"/> すじだてシート発表会 ■簡単な動画制作実践1 (保存・テロップ・音楽挿入を学ぶ。)		■市民塾の活用法2 (ポートフォリオワークシートと地域eパスポートについて知る。)
STEP2在宅学習 1週間 7/19(木)～7/25(水)	■インターネットマナーと著作権について インターネットの注意点・知的財産権・著作権・肖像権について学ぶ。		学習や活動の記録や、取り組みや実績などをポートフォリオワークシートに記入して下さい。自分を振り返りながら目標を考え、ワークシートの記入を進めて下さい。
第4回 スクーリング (事務局0.5H) (講師:高緑利江氏1.5H) (時間数:2H) 7/25(水) 18:30～20:30	■簡単な動画制作実践2 (テロップ・音楽・ナレーション挿入)(YOUTUBEへのアップロード方法と流れを学ぶ。) <input type="checkbox"/> 作品制作にとりかかる	■市民塾の活用法3 (ログイン、マイページ、メール、掲示板の使い方を学ぶ。)	目標の方向性を少しずつ固め、目標の実現に向けて行った取り組みや日々の活動をポートフォリオワークシートの記入し、進めて下さい。
STEP3在宅学習 2週間 7/26(木)～8/7(火)	■公民館ネットの活用について (公民館ネット・インターネットの活用について学ぶ。)		講座で学んだ事を今後どう活かすか考え、公民館活動やICTふるさと学習推進員に関連ある活動をポートフォリオワークシートに記入して下さい。
第5回 スクーリング 講師:福原 達氏(1H) 講師:高緑利江氏(1H) (時間数:2H) 8/8(水) 18:30～20:30	<input type="checkbox"/> 作品発表会	■公民館ネットの活用法 (公民館ネットのログインと活用方法を学ぶ。)	■今後の活動の流れについて (講座終了後の認定と活動の流れについて) eメンタからの書き方のアドバイスを参考にし、ポートフォリオワークシートの記入を進め、見直しを行って下さい。
第6回 修了式・研修会 (時間数:2.5H) 8/29(水) 18:00～20:30 講師:山本一弘氏	■地域活動実践研修		■地域eパスポートの申請 (自己PRシートの入力と認定申請を行う。) <input type="checkbox"/> ポートフォリオワークシート発表会 ■研修会・修了式

【第二期 ICT ふるさと学習推進員認定講座カリキュラム】

【講座カリキュラム】	
第二期 ICTふるさと学習推進員認定講座の内容と受講の流れ 【ふるさと学習に役立つICT活用を学び、地域活動を活発にする】	
対象者： ①県民カレッジでふるさと学習について学んできた人 ②公民館でふるさと学習を広めている人(広めようとしている人) ③その他でふるさと学習に取り組んでいる人	
修了条件 ICTふるさと学習推進員として認定を受ける	
認定要件 <ul style="list-style-type: none"> ・活動の企画・募集・仲間づくりに役立つICT活用の考え方を学びます ・活動の中身(活動記録・教材づくり)に役立つICT活用の考え方を学びます ・活動状況(活動内容・レポート)の発信に役立つICT活用の考え方を学びます 	
★第1回 11/14(水) 19:00-21:00 オリエンテーション ①ICTふるさと学習推進員とは・・・ ②講座の流れについて(事務局より) ③受講者自己紹介 【持参】自己紹介シート	
★第2回 11/20(火) 19:00-21:00 スクーリング 「自分再発見ワークショップ」株式会社RO9 代表 長井 亮 氏 自分の魅力、自分にしかできないことを再発見する。関係機関や住民と協働して活動することができるよう、自身の経験と持ち味を生かした適切な役割を考えます。 【持参】パソコン	
★第3回 11/29(木) 19:00-21:00 スクーリング 「地域を知り地域理解のための実践活動研修」砺波市立鷹栖小学校 校長 山本 一弘 氏 富山県公民館連合会 事務局長 中村 啓志 氏 ICTふるさと学習推進員として学校や公民館で活動するための考え方や地域とのかかわり方を学びます。	
★第4回 12/13(木) 19:00-21:00 スクーリング 「文化財・地域資産の記録・保存・活用に役立つデジタルアーカイブ基礎講座」富山大学教授 黒田 卓有 氏 有形・無形の文化財、地域資産の記録・保存・活用の際に役立つ、デジタル化の考え方、効果を学びます。	
★第5回 12/14(金) 19:00-21:00 スクーリング 「活動に活かす写真撮影と活用」STUDIO SEN 代表 泉田 正彦 氏 活動の告知、仲間集めに大切なプロフィール写真や活動スナップなどの撮影方法を学びます。 【持参】デジタルカメラ	
★第6回 12/19(水) 19:00-21:00 スクーリング 「知っておきたい写真加工の基礎」パソコンクラブ講師 高緑 利江 氏 デジタルデータの管理方法を理解し、ICTを使った写真の基本加工術を学びます。 【持参】パソコン	
★第7回 1/16(水) 19:00-21:00 スクーリング 「地域情報発信 公民館学遊ネット」富山県民生涯学習カレッジ 福原 達 氏 ICTの広報媒体の1つである「公民館学遊ネット」の活用方法を学びます。 【持参】パソコン	
★第8回 1/19(土) 14:00-17:00 スクーリング 「活動PR資料作成」パソコンクラブ講師 高緑 利江 氏 ICT活用し、講座の伝え方を学び、自分の活動説明資料を作成します。 【持参】パソコン	
★第9回 2/21(木) 19:00-20:30 修了式 ①発表会 (ICT活用を取り入れた今後の取り組みについて) ②修了証授与	
在宅学習	インターネットコミュニケーション ネットマナーと著作権 活動の記録・今後の取り組み目標作り 自己PRシート作成

地域活動研修の内容①（講師：中村啓志氏）

地域住民にとって最も身近な学習の場、地域づくり・ふるさと活動の拠点には公民館である。実際に地域に出て活動するために公民館の状況を知り、公民館自体の事業・活動に積極的にかかわっていくことはきわめて重要である。そこで「公民館とふるさと学習」をテーマに、以下の研修を行った。

（1）公民館とは

- ・ 単に学習・活動場所を提供している「貸し館」ではないこと、主事、指導員等職員が住民のニーズに応え企画・コーディネートして計画的に「教育活動」が行われていること。
- ・ 教育目標に従って「系統的」に教育活動が行われる学校教育と異なり、「社会教育法」に基づき、住民の自主的参加・主体的意思により「相互的・総合的・実践的」に学習が行われていること、そのために各種のサークルの育成・支援が行われていること。

（2）富山県の公民館における学習活動

- ・ 学習・実践の基本を「地域活性化・地域づくり」「ふるさと学習」に置いていること。
- ・ きっかけは「学校週5日制（学校週休2日制）」であり、その際、土日を地域・家庭で過ごす子どもたちの単なる「受け皿」（「子ども『を』地域『に』かえす」としてではなく、子どもたちへの社会教育としての「学校外活動」（「子ども『に』地域『を』かえす」として問い直しが行われたこと。
- ・ その中で、住民の間でも子どもたちに示すことのできる「地域」＝私たちが生きてきた「ふるさと」とは何かが見つめ直され、ふるさとの「よさ」の再考・再発見活動としてふるさと学習が始まったこと。
- ・ こうして公民館は、「成人教育センター」から「世代交流拠点」に、「館内・受講」から「地域・実践体験」に、「ライフステージ課題」から「地域課題」に、「テーマによる学び」から「エリアにおける学び」に変わってきていること。

（3）公民館は今

- ・ 従来の発信手段は「紙」、「口コミ」であり、その範囲で自己完結していた感があるが、地域社会を取り巻く環境の変化や住民の生活・行動様式の多様化等の中で、改めて地域の「フェイス to フェイス」ネットワーク構築のために、地域の「よさ・かけがえのなさ、安全・安心」の共有のために、「発信・連携」の方法の工夫が喫緊の課題となっていること。
- ・ だが、日々の事業企画・立案には公民館職員の大きな労力・長い時間が必要であり、各公民館は慢性的な「発信のためのマンパワー不足」にあり、「この指に止まってほしい」助っ人、サポートボランティア等を必要としていること。

（4）地域人材としての自覚

- ・ 公民館を活用しての活動・参画には、住民としてまずは地元公民館の実情を知り、地域の実態・特性を把握し、「とりあえず何かに参加してみることも重要であること。

地域活動研修の内容②（講師：中村啓志氏）

富山県では、教育委員会の所管する学校教育や、社会教育、体育活動だけでなく、すべての各室課が連携して、いわば県民総ぐるみで、ふるさと教育を推進していくこととしている。ふるさとへの愛着や誇りの心をはぐくむ「ふるさと教育」では学校教育、社会教育が融合する部分があり、お互い一線を画するのではなく両者が融合し、一緒になって進めていくことでより効果的になっていくことから、「学校教育、社会教育が連携したふるさと教育の推進」をテーマに、以下の研修を行った。

（１）学校教育も社会教育も「人なり」

- ・ 社会教育でも学校教育でも結局は人であり、人が人を育て、人が人を生かし伸ばしていく。また人が人として生かされ伸びていく。地域人材が自らの活動場所を求める時、活動内容もさることながら、そのような人を見極めることが肝要である。

（２）ふるさと教育の推進について

- ・ ふるさと教育にてふるさとへの愛着や誇りをはぐくむ活動を企画する際の視点として「四季の素晴らしい自然を意識」「学習分野は多種多様」「地域は人材の宝庫」であることを、実際のふるさと教育の実践内容をもとに解説。

（３）キーワードは連携

- ・ 公民館を中心とした地域活動ではこれまでも様々な団体と連携して事業を推進してきたが、地域でのふるさと教育は、それぞれの単なる学びや体験で終わるのではなく、「人づくり」「地域づくり」の視点から取り組んでいくことが大切である。
- ・ いかにして地域の優れた人材や埋もれている人材を発掘し、生かしていくかが問われている。地域人材として、声をかけられるのを待つのではなく自ら積極的に関わることも大切である。
- ・ ふるさと教育の推進では、これまで同様に、地域の人たちで作る諸団体との連携も非常に大切であるが、異種なる機関や施設との連携、ネットワークをいっそう拡大していく努力が求められる。
- ・ 一つの公民館単位のエリア内で、限られた地域住民を対象とした事業だけでは限界がある。富山県公民館ふるさと教育推進事業では、町公連・市公連単位で、複数の公民館が協力して事業を進め、新たな事業が可能となり、大きな成果を残した。様々な個人・団体・機関・行政各課と連携した事業は、町おこし、地域おこし等、様々な波及効果がある。

（４）ICTふるさと学習推進員の活躍の場

- ・ 豊かにふるさと教育を推進していくためには、従来型の進め方だけではやはり限界があり、公民館自身が幅広く人材を求めていくことが大切である。
- ・ ふるさとの映像をデジタル化や映像や写真をもとにHPを作成していくなど、公民館が苦手とする分野にて、ICTふるさと学習推進員の新たな活躍の場も開けていく
- ・ ICTふるさと学習推進員は、生涯学習として自己の学習欲求を満足させるだけではなく、豊かな経験や技能を社会還元していく事が大切である。お互いに求め合う関係になってこそ、ウィンウインの関係ができる。

【第一期 ICT ふるさと学習推進員認定講座 受講者プロフィール】

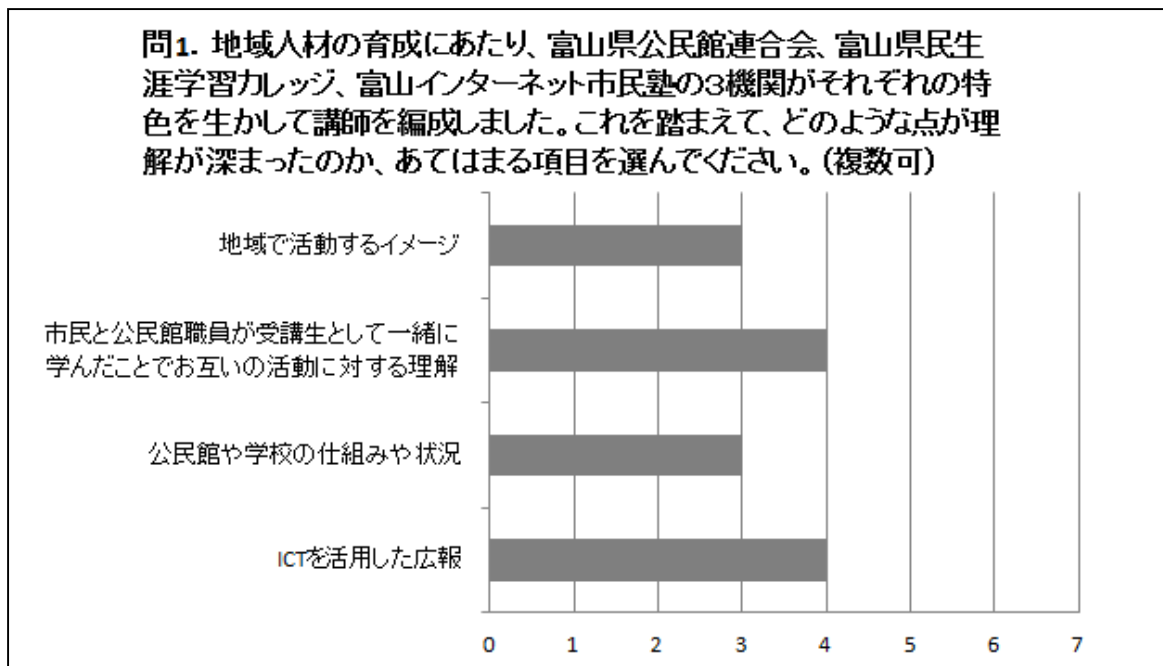
No.	名前	性別	年齢	職業	動機
1	Aさん	男	61	自営業	富山の情報発信力が弱いので、富山の情報を世界に向けて発信したい。
2	Bさん	女	59	団体職員 公民館	膨大な記録はあるがデータの保存や発信が苦手なので克服するため。地域の情報を発信したいため。
3	Cさん	女	61	会社員	旅先でふるさとについて語るシルバーボランティアに感銘を受け、今後の生き方について考えた際に富山の歴史を勉強し、ふるさと富山の魅力を伝えていきたいと思ったことがきっかけ。
4	Dさん	女	57	団体職員 公民館	ICT活用の方法次第で伝わり方が違うと思うので、写真をまとめ、情報発信の手段を学びたい。
5	Eさん	男	63	団体職員 公民館	さまざまな公民館活動をしているのに情報発信がうまくできていないので、情報発信できるようになりたい。
6	Fさん	男	55	団体職員	パソコンは全くの初心者ではないものの、少しでも学ぶことがあれば学びたい。そして地域に還元したい。
7	Gさん	男	66	団体職員 公民館	地元公民館の情報を発信し、日本一の公民館にしたい。
8	Hさん	男	65	自営業	地元の公民館のホームページを作成するお手伝いをして、1年以上経ちました。私自身は、公民館がどうあるべきかについてはよくわかっていないので、公民館の仕事に携わる方が受講されるのであれば、どのようなニーズを持っているか、お話を聞いてみたいと思ったのが受講のきっかけとなりました。ネットワークを利用した公民館の盛り上げに資するような、気づきや発見があればと期待します。

【第二期 ICT ふるさと学習推進員認定講座 受講者プロフィール】

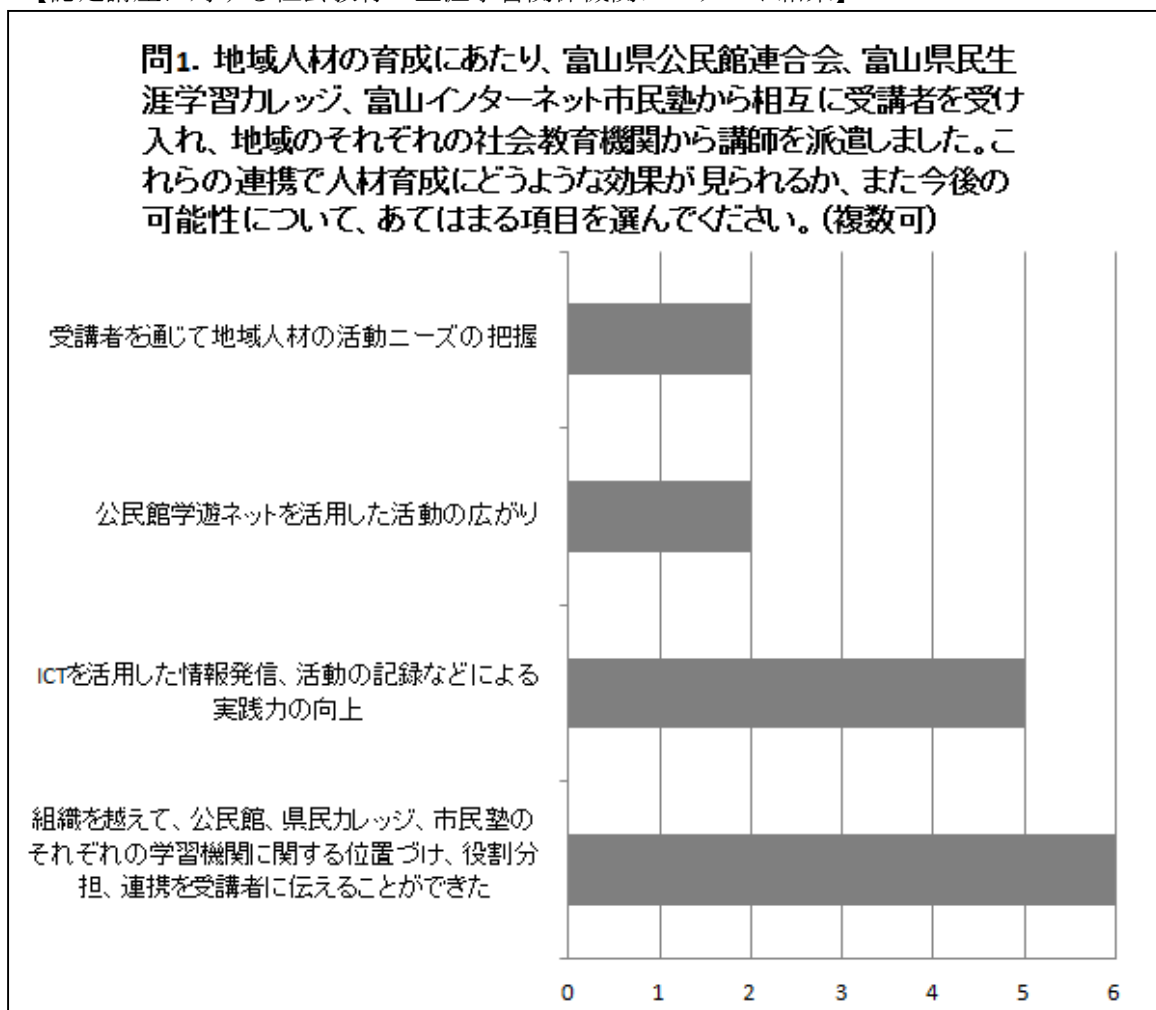
No.	名前	性別	年齢	職業	動機
1	Iさん	男	61	無職	今後の活動の停滞感を切り開く
2	Jさん	女	47	団体職員 公民館	仲間集めに大切な写真やスナップの撮影方法、ICT活用など役立つICTを学びたい
3	Kさん	男	35	自営業	交流会の運営に役立てるため

講座修了後にアンケート調査を行い、ネットワーク化による研修の効果を確認した。結果は以下のとおりである。

【認定講座に対する受講者アンケート結果】



【認定講座に対する社会教育・生涯学習関係機関アンケート結果】



(2) ショーケース作成指導

ICT ふるさと学習推進員認定講座にて

第一期：H24.6.28～9.18

8名のICTふるさと学習推進員認定講座受講者に4名のeメンタが学習フォロー自己PRシート作成指導：eメンタ、市民塾事務局

第二期：H24.11.14～H25.1.30

3名のICTふるさと学習推進員認定講座受講者に2名のeメンタが学習フォロー自己PRシート作成指導：市民塾事務局

実施内容：それぞれの持っている知識、経験をどのように生かして地域活動を目指すか、学習歴、活動歴の振り返り、ストーリー・テリング、自己理解、目標づくりなどを通して、ショーケースの作成方法を学んだ。ショーケース作成は、自身の学習成果を地域活動に結びつけるための重要な学びの要素である。学習歴、活動歴、目標づくり等はeポートフォリオを活用した。

【メンタリング実績】

メンタリング 対象者数	期間	メンタ 人数	メンタリング 件数	受講者あたり 平均件数
第一期 (受講者：8名)	H24年6月28日(木) ～H24年9月18日(火)ま で	4名	43件	5.4件
第二期 (受講者：4名)	H24年11月14日(水) ～講座修了後、活動開始まで	2名	23件	5.8件
計		6名	66件	5.5件

第一期では、スクーリングの際に e メンタも参加し受講者の様子を見守った。なお参加できなかった e メンタへは市民塾システムを用いてスクーリング内容を共有するようにした。

第二期では、スクーリングに毎回出席することをメンタリングの条件とした。スクーリング前後で受講者と e メンタの交流を行うよう促した。

【自己 PR シート 記入項目】

わたしのビジョン (目標)	<p>①実績 (これまでの活動実績や動機)</p> <p>②これまでに学んだこと (これまでの活動から学んだこと)</p> <p>③今回の講座で学んだこと (本講座で学んだこと、活かし方)</p> <p>④目標(達成されること／①②③の成果を踏まえた目標)</p> <p>⑤自身の役割 (自分が主体的に担うこと)</p> <p>⑥周りの役割(期待／自分以外、外部に担ってほしいこと)</p>
わたしのコンピテンシー	<p>① 自分を高める力 (自律的行動力) 実際に今までの経験のなかで取り組んできた活動を例に挙げてみる。例えば、計画を考えること、進め方、意見を合わせる、仲間を集める、段取りを考えるなどの実例を出す。自分として評価できる部分を記入。「～してうまく行いました。」活動の中で良かったところを記入する。今までやってきた良いことをまとめる。</p> <p>②人間関係を作る力 (人間関係形成力) これまでの取り組み例を取り上げてみる。例えば、仲間づくりした経験などあると思う。集める際にどんな工夫したかをあげる。1人ではなく、参加者とうまくできたことをあげる。そのなかでの自分の役割を説明する。</p> <p>③道具を使う力 (情報技術・道具活用能力)</p>

	今までに実際行ってきたことを1つ例に挙げてみてください。なにがどこまでできたのか、プライベートで行ったことでも良い。例えば「資料作りしました。ここまではできています。今後～ができるよう高めていきます。」
わたしのアクティビティ	目標に対し、実現に向けてどのように取り組んで来たか、どの様に取り組んでいくか記入して下さい。
わたしの成果	活動の取り組みとして、学んだ成果やキャリアを記入して下さい。 ② 趣味／現在のお仕事・職歴／活動を通して取得した学習訓練歴 ②活動に関するトピック・講座で学んだ学習の記録

受講者には自己PRシートの書き方として以下の例を示した。

【自己PRシート（目標／アクティビティ） 書き方例】

自己PRシート(ワークシート)の書き方例

わたしのビジョン - 目標

①実績

これまでの活動実績や動機

「2002年〇〇歴史研究会の発足」
10年前に地元の郷土史が無いことを知り、地元の歴史をまとめることを決意。そこで同士を集め、寺院等で資料を収集。数千点の資料、写真を100ページの冊子にまとめ、地域1,000世帯に配布。

③今回の講座で学んだこと

本講座で学んだこと、活かし方

「分かりやすく親しみやすい教材作り」
写真加工と映像制作の技術を、子ども達にも分かりやすい資料やビデオ制作に役立てる。公民館ネットを使い、地区の住民へ活動報告を積極的に行う。

⑤自身の役割

自分が主体的に担うこと

「歴史研究会の推進と継承活動」
郷土史の発行作業において、全体の進行を取りまとめる。活動チームの仲間を集め、若い世代を指導し、継承していく。公民館とのパイプ役を担当する。

■記入時のポイント

・誰が、誰に(のために) / 数字や期間を入れると効果的 / 具体的な言葉やキーワードを盛り込む / 目を惹くサブタイトルやキャッチコピー

②これまでに学んだこと

これまでの活動から学んだこと

「〇〇河川と共に生きてきた先人」
地域を流れる河川の災害や、当時の住民の暮らしぶりを知る。郷土史をまとめるにあたり、仲間の必要性を知り、協力者への感謝の気持ちを抱く。

④目標(達成されること)

①②③の成果を踏まえた目標

「〇〇の歴史を〇〇町の子ども達へ伝える」
子ども達のために、郷土の歴史に関心を持たせ、活動の成果を学んでもらう。住民に先人の生き方から、郷土への愛着と誇りを持ってもらう。2013年度中に資料やビデオを制作して、学習活動の機会を作る。

⑤周りの役割(期待)

自分以外、外部に担ってほしいこと

「子ども達、住民と共に学ぶステージへ」
公民館の協力を得て、地区での郷土史発表会など住民へのPR、参加を促していきたい。地区の児童が、学校で学べる機会を作るために、関係機関への働きかけをしたい。

わたしのアクティビティ - 取組み

【1. 映像教材の制作】

子ども達向けの郷土史ビデオを制作

【2. 住民と子ども達への公開】

公民館の協力を得て、住民向けの発表会を開催。関係機関と連携して子ども達の学校教材として使ってもらえるように働きかける。

【3. 親子町歩き】

関心の持ったテーマに基づいて、我が町を散策する体験交流会を開く。

【4. 子ども達の学びの成果】

体験交流会に参加した子ども達の作文を集め、文集を作る。

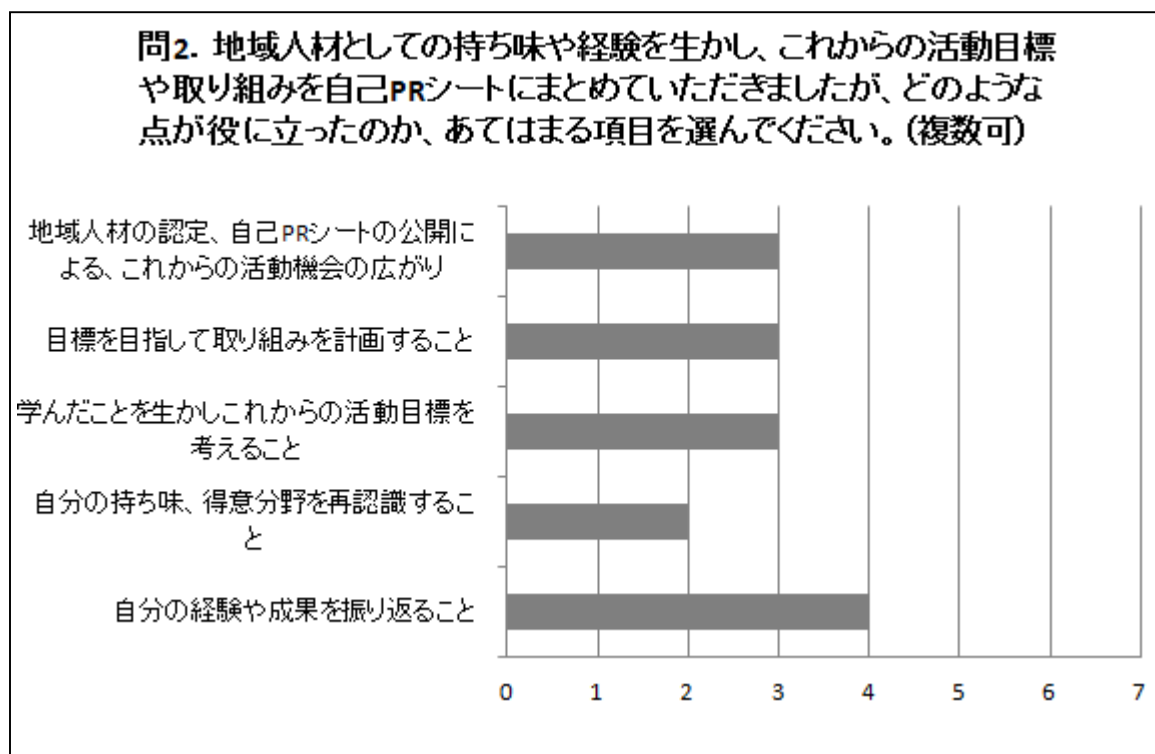
【5. 活動の認知・PR】

研究会の活動内容、住民参加のイベントや子ども達の学習の様子を、継続的に公民館ネットで発信していく。

以上の活動計画を2012年9月からの1年間で実行。広く住民の参加を促し、公民館、学校と一緒に郷土史を学び合う環境作りを推し進める。

ショーケース作成指導後にアンケート調査を行い、ショーケース作成の効果を確認した。結果は以下のとおりである。

【自己PRシート作成に関するアンケート結果：受講者の回答】



(3) ショーケース作成指導者研修

実施研修：eメンタ研修会 H24.8.17

受講者：eメンタ6名

講師：長井亮氏（株式会社R09）

実施内容：地域人材認定を目指す申請者への、eポートフォリオを活用した自己PRシートの作成の指導にあたるeメンタの実践的な研修を実施。研修ではキャリアコンサルタントによる自分の強みや特徴と、市場の分析から、活動に生かす方法についての講義を受講。

(4) 情報サポーター研修

実施日：H25.2.8

受講者：3名

講師：山本一弘氏（砺波市立鷹栖小学校）／黒田卓氏（富山大学）

実施内容：写真やビデオ映像を活用した活動紹介や、コミュニティ活動に役立つSNSの活用方法などを学び、とやま公民館学遊ネットやインターネット市民塾を活用した学習活動を学んだ。

著作権、個人情報の保護など情報発信の際に留意すべき事柄の理解、情報モラルについて学んだ。

【情報サポーター研修カリキュラム】

1. はじめに	地域 e パスポート研究協議会 柵富雄委員
2. 自己紹介	受講生による自己紹介（各自 3 分内）
3. 講義 1	公民館、学校など地域で活動する際の関わり方 講師：山本一弘先生（砺波市立鷹栖小学校 校長）
4. 講義 2	デジタルアーカイブ 講師：黒田卓先生（富山大学人間発達科学部 教授）
5. 自己 PR シートの説明	

（5）公民館職員向け ICT 活用研修

実施研修：とやま公民館学遊ネット活用研修会 H24.11.27

受講者：公民館職員 19 名

講師：福原達氏（富山県民生涯学習カレッジ）

実施内容：ふるさとの最も身近な生涯学習施設である公民館の情報発信力を強化する目的で、平成 23 年度末県内の公立公民館 324 館のホームページを開設し、それを一覧できる「とやま公民館学遊ネット」を稼働させた。これにより、各公民館の PC から、お知らせや写真や動画付きの行事報告、公民館便りなどの資料ファイルを HP 上に公開することが可能になった。

「とやま公民館学遊ネット」を通じた公民館情報の発信について、公民館職員のニーズも高く、公民館活動に対する地域の理解や地域人材との関わりをより深めるという効果も期待できることから、とやま公民館学遊ネットを通じて活動を発信し、地域活動や地域人材との関わりを深めようとする公民館職員に対し、コンテンツの授受や Web ページ管理方法等について IT 活用研修を行った。

研修は約 3 時間の半日コースで、公民館ネットの概要、情報登録の方法（お知らせ、トピックス）について PC を使って学んだ。これを 11 月 27 日（火）午前、午後の 2 回に分けて実施し、計 19 名の受講があった。

2-2-2 人材認定プログラム

(1) 評価委員会

富山大学／富山県教育委員会／富山県民生涯学習カレッジ／富山県公民館連合会による評価委員会を構成した。

地域人材認定の申請者について、評価基準に照らし合わせて評価を行った。

申請者が作成したショーケースにアクセスし、評価点を報告する「ネット評価会」として実施した。申請者の個人情報等の守秘義務とセキュリティ対策措置の上で任にあたった。

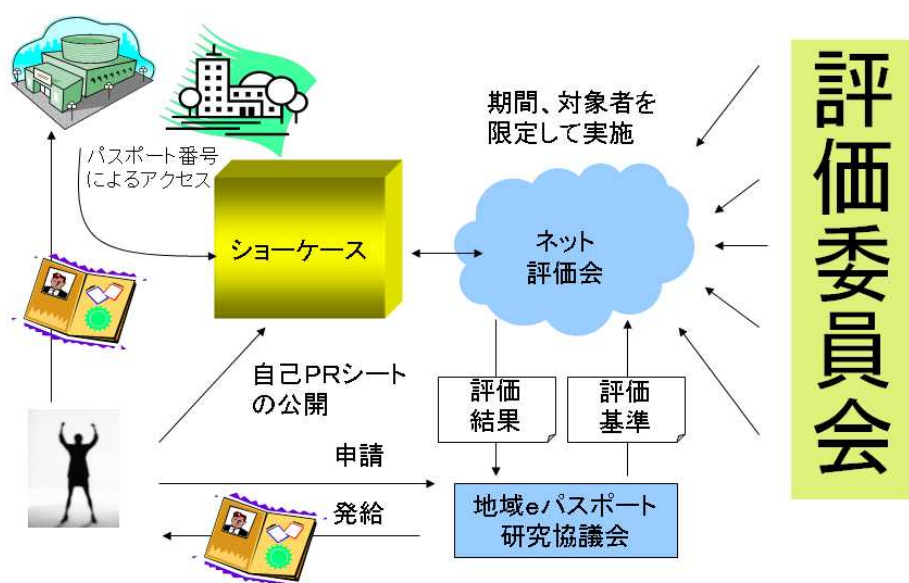
評価委員会は計2回実施した。第1回は、H24.9に評価委員6名により、申請者8名のネットによる評価を実施した。第2回は、H25.2に評価委員8名（H24.9評価委員6名に2名のオブザーバーを加えた）による、申請者3名のネットによる評価を実施した

【評価委員】

加藤 敏久	富山県民生涯学習カレッジ学長
木下 晶	富山県教育委員会参事 県立学校課 課長
黒田 卓	富山大学人間発達科学部教授
中村 啓志	富山県公民館連合会事務局長
平野 富佐	富山県教育委員会 生涯学習・文化財室 室長
山西 潤一	富山大学人間発達科学部教授

オブザーバー

立田 慶裕	国立教育政策研究所生涯学習部統括研究官
道本 浩司	NPO法人市民の力わかやま 理事



評価会では、以下の評価シートに基づき各評価委員が評価を行った。

【評価シート ICT ふるさと学習推進員】

申請者名【】		評価委員名【】		評価実施日 平成24年 月 日	
	評価の視点	評価項目	対象とする記録、情報	評価基準 記載されていない(0点) あまり評価できない(2点) 少し評価できる(4点) 評価できる(6点)	
成果	○ふるさとに関する研修等の受講実績 関連する活動の実績 ・市民塾での講座開催 ・公民館等での発表、講演、セミナー講師 ・コミュニティの結成、運営	○関連する学習の受講回数、内容 ○地域活動回数、内容(参加者、日数等)	○自己PRスライドの「わたしの成果」	目標が具体的に示されている	
				テーマ、対象者、活動の形が明確に示され、目標達成のためのプランが具体的である	
ビジョン	○ふるさと学習推進員として、学んできたこと、実践してきたことをどのように役立てようとしているか ○その目標と実践プラン明確か	○ふるさと学習推進員としての明確な目標 ○成果(これまで学んだこと、活動の実績)を生かす関連付け	○自己PRスライドの「わたしのビジョン」 ○プレゼンテーション映像資料等 *ビジョンやアクティビティの項の中で、成果を生かした記載がある場合は、「成果」の記載と同様に評価	これまでの学びや経験の事実、ICT活用等の学習成果を挙げ、それをどのように生かすか記載されている	
				目標達成のための自身の役割が示されている	
				目標達成のための課題と、その解決に必要なことは何か明らかになっている	
				コメント	計 (50)
アクティビティ	○ビジョン(目標)の実現に向けて現在どのような取り組みをしているか	○現在までの具体的な取り組みの回数と内容 ○今後の取り組みと計画	○自己PRスライドの「わたしのアクティビティ」 ○プレゼンテーション映像資料等	現在の取り組みはビジョンと整合性があるか	
				取り組みの内容、質は相当か	
				実現への意欲はあるか	
				コメント	計 (30)
コンピテンシー	○ふるさと学習推進員として活動していくために社会的に求められる能力 ・自律的な行動力 ・人間関係形成力 ・情報・技術の活用力	○取り組みのための実践力 ○自己理解と向上への努力	○自己PRスライドの「わたしのコンピテンシー」 ○セルフチェック ○プレゼンテーション映像資料等	目標への取り組みの中で、自身の持ち味、ICTの活用力等をどのように生かそうとしているか	
				目標や課題を共有し合う仲間づくり、コミュニティ形成にどのような努力をしているか	
				コメント	計 (20)
総合評価			推薦のことば	合計 (100)	

【評価シート 情報サポータ】

情報サポータの人材認定のためのショーケース内容と評価基準		評価委員名【 】	評価実施日 平成 25年 月 日		
評価の項目、視点		評価基準 記載されていない(0点) 記載されている(5点) 記載内容が評価できる(10点)			
自由記述をもとに、下記の観点で評価					
ビジョン (長期目標)			情報サポータの趣旨を踏まえた目標が記載されているか(テーマ、対象者、テーマ)	0	計 (満点20)
			目標達成による成果が記載されているか	0	
成果	これまでの活動／ 経歴・プロフィール		社会生活や企業等での経験をもとに学んだことや身につけた能力が記載されているか	0	計 (満点20)
			身につけた能力や経験が取り組みや目標の達成のためにどのように役に立つか記載されている	0	
コンピテンシー (実践力)	スキル・技術力・得意分野		自身の持ち味を目標への取り組みにむけてどのように生かすか記載しているか	0	計 (満点30)
	コミュニケーション	対象者と良好な関係を築きサポートする力	目標や課題を共有し合う仲間づくり、コミュニティ形成にどのような努力をしているか記載している	0	
	ICTの効果的な活用方法	デジタル教材や素材への活かし方／著作権や個人情報への配慮	ICT活用の効果を理解し、役立てる努力を記載しているか	0	
アクティビティ (取り組み)	活動PR		目標と関連した取り組みが記載されているか	0	計 (満点20)
			これまでの取り組みを踏まえた上で、今後の取り組みが記載されているか	0	
			下記の視点で評価(0～10点の間で採		
総合評価			全体を見渡して、地域人材としての可能性を広く見てください	0	計 (満点10)
			合計		
申請者へのコメント				0	計 (満点100)

(2) 認定者の決定と地域 e パスポートの発給

各評価委員からの評価結果を取りまとめ、認定会を開催し認定者を決定し、地域 e パスポートを発給した。

H24.9 評価結果を取りまとめ認定会を実施

申請者 8 名を ICT ふるさと学習推進員と認定、地域 e パスポートを発給。

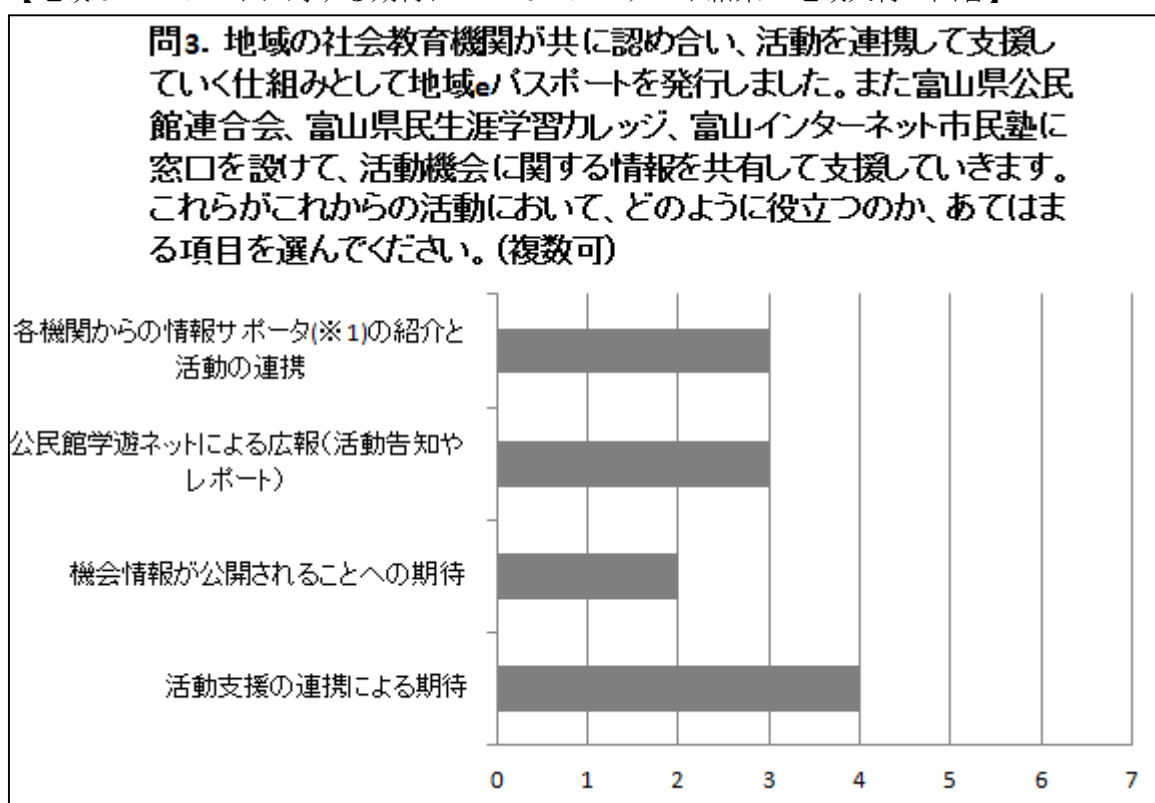
H25.2 評価結果を取りまとめ認定会を実施

申請者 3 名を ICT ふるさと学習推進員と認定、地域 e パスポートを発給。

申請者 3 名を情報サポーターと認定、地域 e パスポートを発給。

認定者に対し、活動機会に関する期待についてアンケート調査を行った。結果は以下のとおりである。

【地域 e パスポートに対する期待についてのアンケート結果：地域人材の回答】



【第 1 回地域 e パスポート研究協議会 認定会】



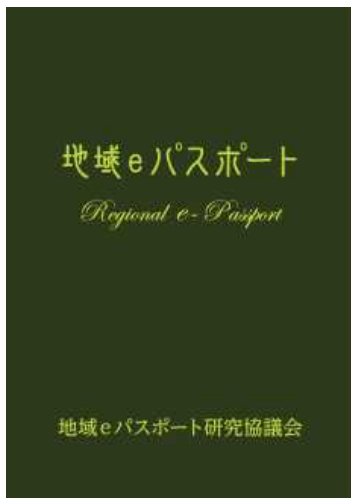
【第2回地域eパスポート研究協議会 認定会】



【地域eパスポート研究協議会 ICTふるさと学習推進員】



【地域eパスポート研究協議会 情報サポーター】



2-2-3 地域人材の活動を支援するプログラム

(1) 地域人材ポータルサイトへの登録、情報提供

地域 e パスポート HP の人材 DB へ、H24.9 に 8 名 (ICT ふるさと学習推進員 8 名)、H25.2 に 6 名 (ICT ふるさと学習推進員 3 名、情報サポーター 3 名) を追加登録した。

H24.3 の登録分と合わせて ICT ふるさと学習推進員 18 名、e メンタ 6 名、情報サポーター 3 名の合計 27 名の地域人材登録が完了した。

【地域 e パスポートホームページ】

地域 e パスポート
Official website

地域 e パスポート研究協議会

ホーム 地域 e パスポートとは? 発行までの流れ 照会方法 お問い合わせ

地域 e パスポートで 富山をもっと元気に!

地域 e パスポート照会

e/パスポート番号
支援機関コード

照会 照会方法を見る

地域 e パスポートをお持ちの方

地域 e パスポートをお持ちでない方

学習支援機関の方 人材をお探しの方

地域人材照会

キーワードで探す 照会

専門分野で探す 分野選択

お知らせ

2013.03.19 市民講師 2 名/情報サポーター 3 名認定

2013.02.21 ICTふるさと学習推進員 3 名/市民講師 9 名認定

2012.09.19 ICTふるさと学習推進員 8 名認定

2012.06.08 ICTふるさと学習推進員 7 名/シニア e メンタ 2 名/e メンタ 4 名登録

2012.06.08 地域 e パスポート オフィシャル Web サイト開設

地域 e パスポートとは?

- 「地域 e パスポート」は、さまざまな分野・テーマにおける優れた人材を認定し、地域活動への参加や新たな事業の創造などの機会を支援することにより、富山の発展、地域の活性化に寄与するものです。
- 自らの学習や活動の成果を地域社会に積極的に役立てようとする意思と目標を持ち、十分な学習歴や活動歴が認められる方を地域人材と認定し、「地域 e パスポート」を発行しています。
- 「地域 e パスポート」は地域人材としての本人確認(写真等)ができるパスポート

URL : <http://toyama.shiminjuku.com/epassport/>

【地域 e パスポートホームページ 人材照会】

地域 e パスポートホームページは、富山県民生涯学習カレッジの人材データベースと、以下のよう

に連携している。





登録いただいた講師・指導者についての住所・電話番号等の連絡先情報はプライバシー保護のため、インターネット上では公開していません。連絡先情報や、登録者以外の講師・指導者情報が必要な場合は、学習相談窓口にご相談ください。

[学習相談窓口へ](#)

よみがな	むらた あきら
講師・指導者名	村田 彰
性別	男
居住市町村	立山町
ホームページ	http://toyama.shiminjuku.com/?m=open&a=page_showcase&target_pf_showcase_id=43 市民塾 自己PRシート
指導可能分野	地域eパスポート 自然科学一般 郷土関係
活動可能時間	活動時間は9時から20時まで、ボランティア関係、地域の会合、行事以外はいつでも可能
活動可能地域	県内全域

指導可能テーマ・活動歴一覧

活動例、プロフィールなど
富山インターネット市民塾で「立山カルデラ砂防探検会サークル」を立ち集め活動している。(立山カルデラ砂防博物館友の会会員)

No.	活動年月	講演会名	
1	平成24年9月	こふし会富山支部同窓会講演	立山カ

「とやま学遊ネットホームページ」人材情報詳細画面では、「地域 e パスポートホームページ」の地域人材当該ページへのリンクが表示

地域 e パスポート

> 自己PRシート

タイトル 「自己PRシート ICTふるさと学習推進員_2013年1月30日」



氏名 下村豪徳 (しもむらつかつひろ)

職業 無職

認定項目 「ICTふるさと学習推進員」

自己PRスライド

[自己PRスライドプレビュー](#)

* わたしのビジョン (将来に対する目標や希望です)

- [滑川に人が集まるコミュニティ滑活交流会\(なめかつこうりゅうかい\)を通じて活性化したい](#)

* わたしのコンピテンシー (様々な取り組みや活動を通して、学んだことや身につけた力です)

- [自分を高める力] [認知\(メディア活用\)してもらうことや集客\(周囲の応援\)できることが嬉しい](#)
- [自分を高める力] [マーケティング手法の活用](#)
- [人間関係を作る力] [SNS\(Facebook\)の活用](#)
- [道具を使う力] [パソコン・スマートフォンを使うのが得意](#)

* わたしのアクティビティ (今取り組んでいる活動です)

- [滑活交流会\(なめかつこうりゅうかい\)をより楽しい会にしたい](#)

* わたしの成果 (これまでの取り組みによる実績です)

- [滑活交流会の運営](#)

* わたしの経歴

- | | | | |
|--------------|-------------|----------------|----------|
| ★ 受講修了講座 (0) | ★ 出会った人 (0) | ★ 職歴 (0) | ★ 短所 (0) |
| ★ 取得資格 (0) | ★ 社会活動 (0) | ★ 学習・訓練歴 (0) | |
| ★ 読んだ本 (0) | ★ 趣味・特技 (0) | ★ 長所(自己PR) (0) | |

* プレゼンテーションファイル

登録されていません

[⇐ 下村豪徳さんのeパスポートに戻る](#)

地域 e パスポート

自己PRシート

タイトル 「自己PRシート」ICTふるさと学習推進員_2013年1月30日」

氏名 下村豪徳 (しもむらかつのり)

職業 無職

自己PRスライド

わたしのビジョン

滑川に人が集まるコミュニティ滑活交流会(なめかつこうりゅうかい)を通じて活性化したい

私は滑川に人が集まるコミュニティ作りに取り組み、県外や市外の方にイベントで体験していただき、滑川の魅力を発信してくれる滑川のファン(愛称:滑ファン)1,000人を目標としている。

交流会の発足の動機は子供の誕生でした。
私の故郷は立山町で、現在は滑川に住んでおります。滑川は子供にとって故郷になります。親である私が滑川の良さを伝えることができないことに気づきました。

そこで、滑川の良さを発見したり探したりして勉強をしようと思いたちました。しかし、一人で勉強するよりもコミュニティとして色々な方を集って一緒に学習する場を設けようと考えました。
それが、滑川の活性化にも繋がり、最終的には子供達に良い故郷を残すことになると思いました。

どなたでも気軽に参加しやすいイベントを心がけています。イベントは座学、体験型と2種類企画しており、いずれも参加者が滑川の良さに気づいていただけるものになっています。

1 / 7

受講修了
取得資格 (0) 社会活動 (0) 学習・訓練歴 (0)
読んだ本 (0) 趣味・特技 (0) 長所(自己PR) (0)

プレゼンテーションファイル
登録されていません

下村豪徳さんのeパスポートに戻る

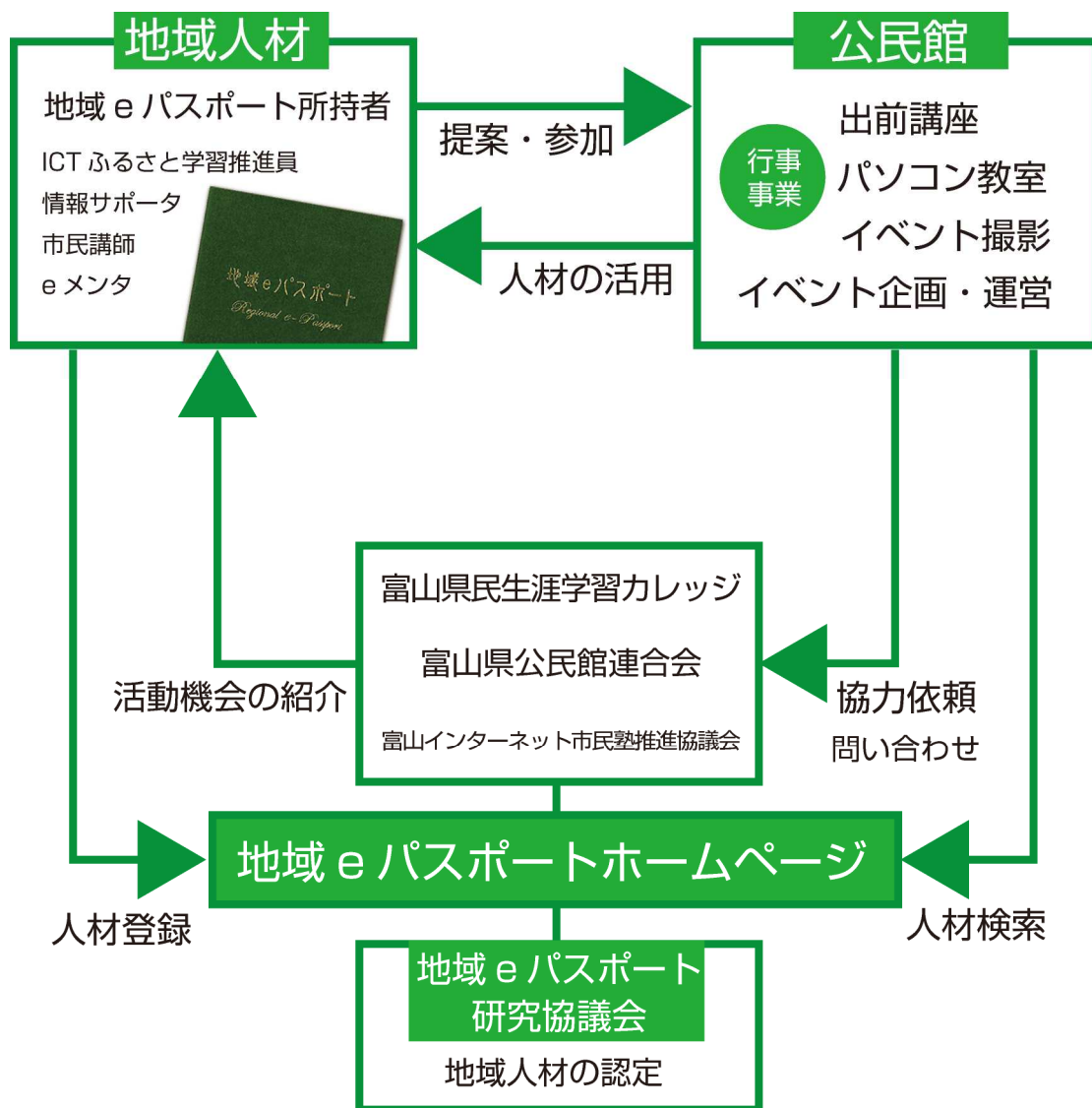
Copyright © 地域eパスポート研究協議会 All Rights Reserved.

(2) 地域人材照会、派遣支援

地域 e パスポート研究協議会では、地域人材の活動窓口を 3 機関（富山県民生涯学習カレッジ、富山県公民館連合会、インターネット市民塾）に設置した。

富山県民生涯学習カレッジではこれまでも公民館などからの人材情報の相談業務を行っており、本事業により、地域 e パスポート所持者についても対応を始めた。

富山県内の公民館 320 館に対し、H24.11 地域 e パスポート HP の利用方法と地域 e パスポート所持者リストの送付、地域 e パスポートの周知活動を実施した。



(3) 地域人材活動フォロー

地域 e パスポート所持者が公民館や学校などで活動するための、活動機会の創出や活動内容等のフォローについて、公民館と富山県生涯学習カレッジと富山インターネット市民塾が協力して相談窓口を設置、地域人材の支援体制を整えた。

また3機関によるメーリングリストを立ち上げ、情報共有を行なっている。

その結果、ICT ふるさと学習推進員として認定した11名中6名が、地域人材としての活動を継続的に行っている。ほかにも4名が公民館での活動について照会を受けており、ネットワーク化の成果を上げている。

(4) 支援人材活動フォロー

地域 e パスポート所持者の活動を ICT 面で支援する情報サポーターの活動機会の創出等のフォローについて、公民館と富山県生涯学習カレッジと協力し実施した。情報サポーターとして認定した3名が、支援人材としての活動を継続的に行っている。

【地域人材 ICT ふるさと学習推進員／情報サポーターの活動状況 平成25年3月現在】

No.	認定者	活動内容
1	ICT ふるさと学習推進員-1	富山市立浜黒崎公民館にて社会教育主事として公民館業務に従事
2	ICT ふるさと学習推進員-2	富山インターネット市民塾にて富山探検「4次元マップ」サークルを主催
3	ICT ふるさと学習推進員-3	入善町小摺戸公民館にて公民館ホームページやIT活用について指導
4	ICT ふるさと学習推進員-4	富山インターネット市民塾「富山の町歩き ブラ富山」講座、「4次元マップ」サークルにて講師のサポートを担当
5	ICT ふるさと学習推進員-5	「射水市場原歴史の会」事務局にて中心メンバーとして活動
6	ICT ふるさと学習推進員-6	南砺市市立井波公民館にて館長として公民館業務に従事
7	ICT ふるさと学習推進員-7	小矢部市立正得公民館にて社会教育主事として公民館業務に従事
8	ICT ふるさと学習推進員-8	高岡市立中田公民館にて社会教育主事として公民館業務に従事
9	ICT ふるさと学習推進員-9	富山インターネット市民塾にて「越中の昔話を富山弁で味わおう」講座を主催
10	ICT ふるさと学習推進員-10	滑川市の地域活性を目的としたコミュニティ「滑活交流会」を主催
11	ICT ふるさと学習推進員-11	富山市立寒江公民館にて社会教育主事として公民館業務に従事
12	情報サポーター-1	富山インターネット市民塾の講座や県内の自然サークル等で映像記録を担当
13	情報サポーター-2	富山インターネット市民塾にて「ワードでオリジナル作品をつくろう」「パソコンよろず相談室」講座を主催
14	情報サポーター-3	富山インターネット市民塾にて「富山の町歩き ブラ富山」講座を主催

実際に、地域人材が活動機会に結びつくことに、活動機会のマッチングや人材のコーディネート
の成果が現れ始めている。その具体的な事例として次の二つを紹介する。

ICT ふるさと学習推進員（射水市在住）の A さんは、地元で 20 年間に渡り「塚原歴史の
会」というサークルの中心メンバーとして活動している。塚原歴史の会は射水市塚原地区の
歴史を発掘して、地元住民に継承することを活動の目的としている。A さんはサークルの学
習成果を地元の公民館で発表することを切望していた。

A さんはこの発表を見据え、インターネット市民塾が開催する、ICT ふるさと学習推進員
認定講座（H24.6～8 月）を受講した。そこで学んだふるさと学習の意義や地域との関わり
方、また映像作りなどを教材作りや発表に生かすことができると考えた。

この間、インターネット市民塾と富山県公民館連合会の間で情報共有し、公民館へのアプロ
ーチについて A さんにさまざまなアドバイスを行っている。

これらをふまえて、A さんが公民館に対して熱心に働きかけたことにより、平成 24 年 11
月に開催された公民館祭りにて発表が実現した。年間を通してこの地区の一大イベントであ
る公民館祭りにて、多くの住民の方に知ってもらい発表できたことは、塚原歴史の会にとつ
て誇れる実績となった。

また、この模様を収録する人材として情報サポーターの B さんをコーディネートし、紹介番
組を制作。富山市と射水市のケーブルテレビにて放送され、より多くの方に活動が知られる
ようになった。

ICT ふるさと学習推進員（滑川市在住）の C さんは、平成 24 年より滑川の活性化をテーマ
とした「滑活交流会」を主催している。地元の方を講師に迎えた講座や自然探索や祭り、スポ
ーツなどの文化イベントを開催して、滑川市民の交流の促進と滑川ファンを増やすことを目的
に活動している。

C さんはこの活動の運営に役立てようと、インターネット市民塾が開催する ICT ふるさと学
習推進員認定講座（H24.11～H25 年 1 月）を受講した。

滑活交流会の平成 25 年度のイベントは、5 月から第一弾が始まる予定で、これに先立って C
さんは地元公民館との連携を強く希望している。平成 25 年度の活動計画の中にふるさとをテ
ーマにした学習会を企画して公民館との協業を望んでいる。

これらの情報を関係機関で共有するとともに、現在は公民館との交渉準備のため、地域 e パ
スポート研究協議会と公民館連合会がコーディネート役となり、C さんと公民館の調整を行な
っている。

これらは、市民から社会教育施設との連携を望む声が上がったことを受けて、活動を支援した
例であるが、各機関が求める人材とのマッチングも期待される。

活動機会のマッチングのためには、社会教育施設側からの求人情報の一元化も求められると
ころである。この点について社会教育施設へのヒアリングでは、これまではその必要性を感じてこ
ななかったが、今後は重視していきたいとしている。その背景には、それぞれの地域の範囲内でで
きる事業、各機関が主催して完結する事業が多かったことから、他の機関とこれらの情報を共

有する意味が少なかったことが挙げられる。

平成 23 年度に富山県生涯学習カレッジが運営する「公民館学遊ネット」が運用を開始し、富山県内の全公民館の Web ページが用意されたことで、他の公民館がどのような事業を行っているか意識するようになった。

高齢化、情報化、国際化など、さまざまな変化の中で、社会教育事業も現代的課題を捉えた多様な人材の活用が求められている。地域内の人材、関係機関主催では対応しにくい事業も増える中、求める地域人材に関する情報共有への意識も高まってきていると見ることができる。その具体例を示す。

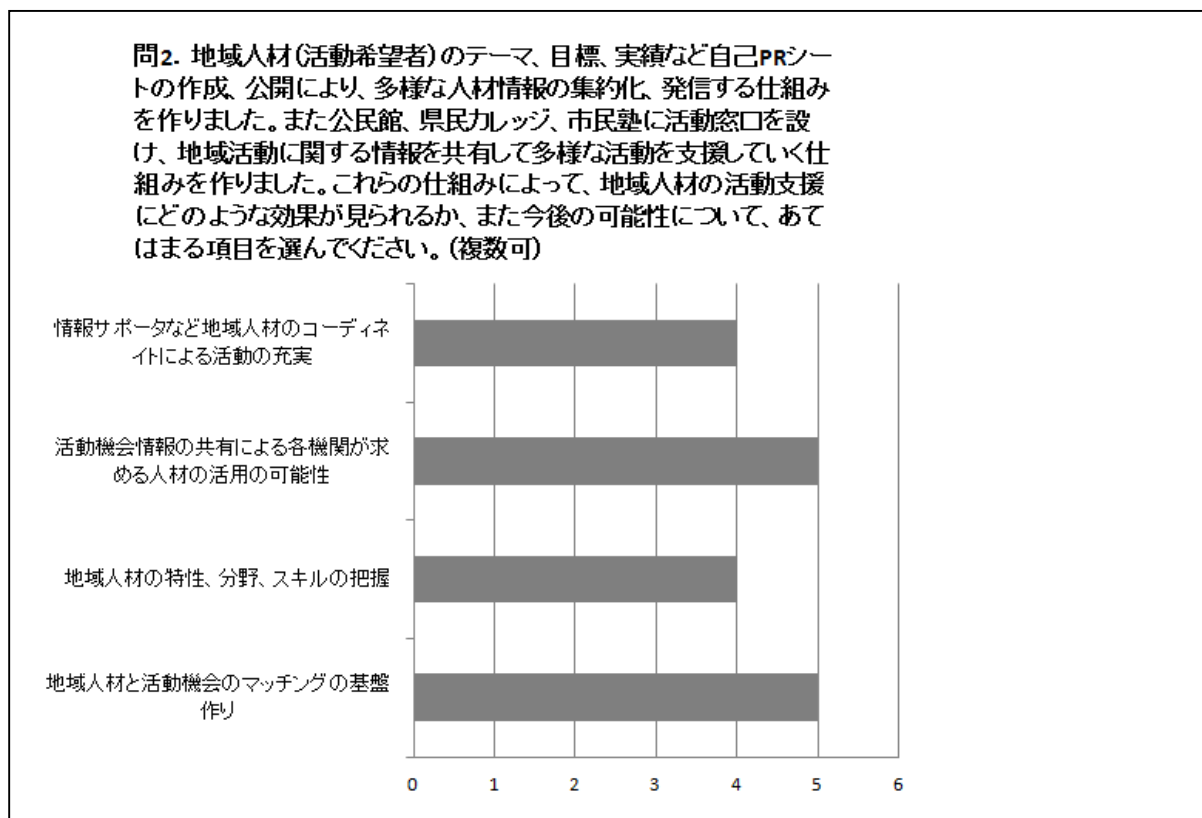
富山県立山町では、高齢者、特に男性の引きこもりによる要介護、要支援者の増加への対策として、タブレット PC を活用した介護予防教室を開きたいと考えていた。地域に適切な講師が見つからず、人材を求める情報を発信していた中で、富山市を拠点に、高齢者の ICT 活用を支援するサポータ活動のリーダーとメンバーを紹介したところ、立山町への出前講座の講師として活動が始まった。

活動では、スマートフォンやタブレット PC を使って、高齢者の興味関心を引き出し、教室への参加を促し、さらには地域の情報への関心を高めようと進められている。

働きながら活動を続けるこのリーダーとメンバーは、富山市での 2 年間の実践ノウハウを有しており、異なる分野にもかかわらず、立山町にとって重要な地域人材となっている。

社会教育、生涯学習機関に対し、本研究で構築した認定者の活動を支援する仕組みについての期待をアンケートにより調査した。結果は次のとおりである。

【地域人材の情報の共有に対する生涯学習・社会教育機関の期待】



2-3 システム開発

2-3-1 地域人材情報ポータルサイト、

ICT ふるさと学習推進員養成講座で養成した「ICT ふるさと学習推進員」等の地域人材の情報を、とやま学遊ネット人材 DB に登録することで地域人材情報の統合をすすめ、合わせて地域 e パスポート Web サイトと、とやま学遊ネット双方から、地域人材について横断的に照会できるように整備を行った。



図 2 地域 e パスポート Web サイトにてキーワードによる地域人材の照会



図 3 照会結果の表示

講師・指導者 とやま学遊ネット TOP

登録いただいた講師・指導者についての住所・電話番号等の連絡先情報はプライバシー保護のため、インターネット上では公開して
おりません。連絡先情報や、登録者以外の講師・指導者情報が必要な場合は、学習相談窓口にご相談ください。

[学習相談窓口一覧へ](#)

●キーワード 講師名(雅号)・よみがな、指導可能テーマなど

お祭り and or

and(かつ)…入力したキーワードのすべてにあうものをさがす
or(または)…入力したキーワードのどれかにあうものをさがす

1 / 1 ページ
全部で 2 件の情報があります。

50

No.	講師・指導者名 (雅号)	指導可能分野	居住市町村 (講師区分)
1	奥野 達夫	その他の芸術・芸能 観光 社会連帯意識 男女共同参画一般 経営・情報	魚津市 (県内講師)
2	吉田 浩志	邦楽 その他の芸術・芸能	南砺市 (県内講師)

図 4 とやま学遊ネットにて横断的に照会を行った結果

また、登録されている地域人材をその専門分野毎に照会できるよう、整備を行った。

地域eパスポート Official website 地域eパスポート研究協議会

ホーム 地域eパスポートとは? 発行までの流れ 照会方法 お問い合わせ

地域人材照会

専門分野で探す

天文(1)	自然(3)	文化・伝統(3)	歴史(6)
防災(2)	語学(0)	環境(1)	まちづくり(2)
産業(0)	芸術(0)	健康(0)	技術(0)
医療(0)	文学(0)	ICT(5)	技術(0)
生活(1)	コミュニケーション(1)	子育て(1)	シルバー(1)
公民館(5)	eメンタ(6)		

図 5 専門分野別照会画面

地域人材照会

専門分野で探す：公民館



認定項目 ICTふるさと学習推進員

消防団活動 33 年、防犯組合事務局 12 年間。メルヘン青色パトロール隊正得地区隊を立ち上げ、通学学童・生徒を 7 年間見守り、地元警察と協力し地域安全に取り組む。親子で参加する「おやべっ子教室」を企画、運営。

氏名 奥井 吉三

[>> 詳細を見る](#)



認定項目 ICTふるさと学習推進員

『景観づくり住民協定事業』『まちづくりモデル事業』に取り組みました。H24年より公民館長を委嘱され、参加者はもちろんスタッフ・ボランティアの方々と一緒に登山などの事業を行い、3世代の交流の場を提供しています。

氏名 鴨野 一夫

[>> 詳細を見る](#)



認定項目 ICTふるさと学習推進員

これからの公民館活動（中田地域生涯学習）に活かしていくため、ふるさとの歴史を記録に残すために、中田地区の歴史・文化を学ぶ「ほたる塾」の活動データを記録・保存。地元住民へ伝承していくことが目標です。

氏名 川原 恵子

図 6 公民館活動に関わる地域人材の照会結果

2-3-2 県民カレッジデータベース連携

富山県生涯学習カレッジにて開講されている講座の受講記録を、富山インターネット市民塾のeポートフォリオに取り込むための整備を行った。カレッジでの受講記録をeポートフォリオに取り込むことで、受講記録を自己PRシートの成果として反映させることができる。

No.	受講年度	講座	単位
1	平成21年度	会員管理 調査用講座03(09/03/20)	0
2	平成21年度	会員管理 調査用講座04(09/03/20)	0
3	平成20年度	学遊ネット講座2/学遊ネット講座のテーマです。 ○○○に関して学習しています。 ○○××□□○○××□□○○××□□◇ ○○××□□○○××□□○○××□□○××□□	10

図 7 富山県生涯学習カレッジでの講座受講記録

名称	実施機関名	感想	単位
エクセル講座	MCA	関数や表の作成など、仕事に役立ちそうなことを学んだ	
マナー研修	IBM	学んだことを日常生活で実践し、身に付けていきたい。	

図 8 富山インターネット市民塾 eポートフォリオの受講一覧、登録画面

3 実証研究の評価

3-1 生涯学習・社会教育における地域人材の育成と評価の動向

生涯学習社会が到来し、学習成果の社会還元が必要とされながら、個人の学習成果が適切に評価されて社会で活用される仕組みづくりは、ほとんど手つかずの状態にある。生涯学習・社会教育では、博物館でボランティア・コーディネータが育成され、館事業経営に参画したという事例や図書館で図書館支援ボランティアが育成され、実際に活動しているという事例もあるが、人材養成と活用は遅々として進展していないのが現状であろう。

さらに、国立社会教育実践研究センター所長の服部英二氏は、全国の生涯学習推進センターでの実態調査・聞き取り調査をふまえて、「地域住民の学習成果の活用・評価については、どの施設も最も重点的に取り組んでいるという認識は持たれていない。」注1)と述べ、人材の活用と評価のあり方に疑問を呈している。生涯学習・社会教育における人材の養成と評価という課題は、ほとんど解決されていない状態にあることは否めない。

このような状況下において、富山インターネット市民塾推進協議会や地域eパスポート研究協議会の先駆的な取組には特筆されるものがある。富山県の生涯学習・社会教育については、1988年に開設されて全国的に評価の高い「富山県民生涯学習カレッジ」と「学遊ネット」の活動があり、「とやまインターネット市民塾」が1999年に設置されていることも有名で、さらに県内で公民館活動が盛んに行われ、特にICTを活用して県内の公民館をネットワークした情報の受発信が重要な役割を果たしていることもよく知られる。

こうした恵まれた生涯学習・社会教育の環境にある富山県においても、他府県同様の悩みがあると聞く。公民館利用者の固定化の問題や事業の活性化という課題があり、地域で活動する人材の養成が必要だと考えられている。本研究事業の昨年度の報告書では、課題解決に向けてeポートフォリオとショーケースを活用した実践的研究を行ったことが記されている。職業教育と生涯学習に関連する「ユーロパス」の例を持ち出すまでもなく、我が国においてもeポートフォリオの活用は急務であり、そのことが社会的にアピールされるショーケースの設定は極めて興味深い実践であり、学習成果を生かし、地域人材としての活躍の場を広げる可能性が明らかになったという報告がなされている。注2)

3-2 ショーケースと地域人材情報ポータルサイトによる人材マッチング

国立教育政策研究所において平成23～24年度に実施された「生涯学習の学習需要の実態とその長期的変化に関する調査研究」注3)における高齢者(50～74歳)対象の調査結果をみると、学習活動への参加の内容としてインターネットや電子メールを使用して学ぶと回答した人が大半で、学習方法としてインターネットや携帯電話を希望するとした人が6割を超えている。また全国的にも人材認証制度で必要とされる費用が無料であるとする機関が過半数を超えており、ICTを柱とした学習活動とその評価、そして学習成果としての地域活動等の場の提供がICTを通して実現できること、さらにICT活用が費用の低額化を図れることを考えると、本研究事業は極めて効果的な試みだと考える。

公民館や県民カレッジでの講座やインターネット市民塾での ICT 学習等の修了者が、地域での活動プログラムづくりに参加し、実践力を養うという学習推進体制が構築され、それがショーケースとして機能し、各人の e ポートフォリオが示される。その次の展開として、地域 e パスポートの取得という適正な人材認定システムが存在していることが重要である。ショーケースをもとに、個人の活動や学習記録等が認定委員会によって問われ、到達目標の明確化が求められるルーブリック評価等によってパスポート取得につながるというシステムの信頼性は、地域人材の可視化にとって不可欠な条件である。

次には学習成果の社会活用を図るためには人材となる人の社会貢献に対するニーズを把握することと、そのためのマッチングが必要となる。先駆的な事例もあるが、現実には認証を受けた人材が活動の場を獲得するのは容易ではない。原因は人材となる人とそれを求める側の双方にあり、両者のマッチングを支援する機能が存在していないことである。

本研究事業は、e ポートフォリオとショーケースの活用の効果が認められたことによって、新しい形の人材認証制度の構築をめざしたものと言えよう。地域貢献をしようとする人の側が持つ悩みに、自分に合った活動場所が見つからないという問題があり、マッチング希望者が大勢いる。本研究事業で構想されたシステムでは、人材育成システム自体がネットワーク化された機関による育成プログラムと人材活動支援プログラムによって機能しているため、発生するさまざまな問題がうまく解決されるように設計されている。実際には、活動内容の理解の相違からトラブルが発生することが多いが、ここで示されている支援プログラムは体験的な活動実践研修であり、相互理解が図られているので、そうした問題は少ないだろう。各種の関係機関でネットワーク化されたシステムによって人材育成が行われ、それがショーケースを通して示されることで、受入側が必要とする基本的な条件を満たすことができると考えられている。地域人材情報ポータルサイトによる情報提供だけでなく、地域人材の紹介や斡旋という形でもマッチングが行われることも、これまでのボランティア人材バンクの次元をはるかに超えたシステムが構築されたと考えてよい。

3-3 地域人材活用ネットワーク事業の社会教育的評価

本事業の先駆的な側面について述べてきたが、社会教育の視点から地域人材活用の有効性を評価してみたい。学習者である認定希望者の自主性や自発性が基盤となっていることは当然であるが、e ポートフォリオの作成を通して自己評価できることでリフレクション（省察）機能が活用され、学習が促進されることになる。ショーケースを通しての自己点検や自己評価は、自己のニーズに基づく学習の内実化を進展させるだけでなく、他者評価を通して社会的な課題やニーズに目を向けることになる。認定希望者の学習が地域課題や生活課題と結合する際に、支援者として講師、アドバイザーや e メンタが存在することで、相互学習が生まれ、共同的な学びの場が生まれる。さらに、より大勢の人がショーケースを活用することで地域人材情報は広がり、地域での学習成果と人材が可視化され、やがて地域コミュニティの維持・発展機能に結びつくことになる。

社会教育の課題である地域コミュニティの形成において、地域 e パスポート所有者が中心となって公民館等での活動の輪を広げること、それを支援する公民館等の社会教育関係職員や地域で

の支援者がサポート機能を発揮することは大きな力となる。本研究事業で示されているようなショーケースの作成、ICT活用研修や公民館職員向けICT活用研修は、こうした課題に対して効果を発揮することが期待できる。

注1) 服部英二『生涯学習推進センター等の新たな役割に関する調査研究報告書』(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、2010年)

2) 富山インターネット市民塾推進協議会・地域eパスポート研究協議会『一人ひとりのeポートフォリオが社会に生かされる学習基盤の構築に関する調査研究報告書』(同協議会、2012年)

3) 国立教育政策研究所『生涯学習の学習需要の実態とその長期的変化に関する研究』(同研究所、2013年)

(委員からの原稿を追加・編集中)

4 今後に向けて

4-1 公民館を活動の拠点とする地域人材に対するフォロー

富山県内には324の公立公民館がある。富山県公民館連合会の研究委嘱事業、富山県教育委員会の委託事業等を受け、総意と工夫を凝らした多くの事業・活動が各種地域団体等との連携によって毎年実施され、その成果が蓄積されてきた。

これまで各公民館の発信手段はペーパーが主体であり、ホームページを開設する館も次第に増えてきていたが、あくまでも「その館の『公民館だより』をWeb上に発表する」というレベルのものが大多数だった。そのため、各公民館では様々な活動を実施しながら、その成果や工夫点・課題等は、公民館同士にも企画・指導・支援等の活動協力者にも広く共有されることが少なかったと言える。

このような状況の大きな変化のきっかけになったのは、平成24年3月の「富山県公民館学遊ネット」の稼働である。これは、富山県民生涯学習カレッジの生涯学習情報ネットワークシステムを拡充し、県内全公民館がWeb上に事業企画・活動予定・成果報告等各種情報を載せるものである。県内各公民館はここに公民館同士はもちろん様々な地域づくりにかかわる機関・団体、そして広く一般に開かれた大きなネットワークを獲得し、相互の連携・関連情報の共有等において新しい時代に入った。

「富山県公民館学遊ネット」の立ち上げにより、各種のネット上での情報発信のノウハウ（基本的技能、表現の工夫（静止画・動画の撮影工夫やUPの工夫）、ネットを生かした活動企画等）の獲得・活用は、各公民館で急務となっている。しかし、少ない公民館職員（多くは非常勤）によって日々の住民の学習支援等が行われているため、慢性的な「情報発信のマンパワー不足」状態にある公民館は少なくない。さらに、Web上への発信だけでなく、公民館のふるさと学習活動は、今やその事業化のための現地調査・聞き取り調査・文献調査や専門機関との連携、企画・立案作業、事業の住民への告知、活動の記録・報告・発表等、事業そのものの展開と地域住民からの認知において、ICTなしでは実施できないところに至っている。それは、これまでの公民館「職員」と公民館「利用者」、事業企画者と事業参加者という関係を克服し、地域住民自身の「協働」による地域の学習・社会教育環境の充実が極めて重要になっていることを意味していると言ってよい。そこに育成した地域人材の地域における活動へのニーズと地域の課題解決・地域づくり活動へのニーズがマッチングできる環境が生まれている。

地域eパスポート所持者の紹介、派遣支援、活動フォローは、この両者のニーズを互いに周知し、公民館ネットワークと密接にリンクさせることを通して行った。全公民館に地域eパスポートのホームページの概要・利用方法について書面で周知案内し、リストの送付による地域eパスポート所持者の紹介・周知を行うとともに、職員対象の各種研修会（公民館のあり方・運営、「公民館学遊ネット」の活用等）で活用・協力要請、地域eパスポートHP検索実習を行った。また、地域eパスポート取得の研修に参加・修了した公民館職員を通して普及活動、ICTふるさと学習推進員としての実践を行った。今後もこれらの普及、支援を継続・充実していく予定である。

さらには、これまで、地域住民レベル・地域課題レベルで学習ニーズを捉えてきた公民館と、

地域にとらわれず個人の学習ニーズで事業展開してきた（本県の場合）県民生涯学習カレッジとの相互乗り入れの重要性も、地域人材の支援、活動フォローの実際面から明らかになってきており、この点での課題解決も図っていく必要がある。

4-2 社会教育の拠点となる公民館と地域人材の今後の役割

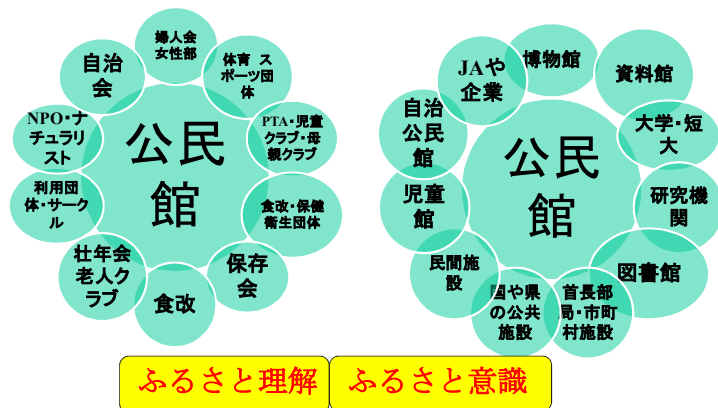
公民館を中心とした地域活動ではこれまでも様々な団体と連携して事業を推進してきているが、地域でのふるさと教育は、それぞれの単なる学びや体験で終わるのではなく、「人づくり」「地域づくり」の視点から取り組んでいくことが大切である。公民館には、いかにして地域の優れた人材や埋もれている人材を発掘し、生かしていくかが問われている。地域住民も声をかけられるのを待つのではなく自ら積極的に関わってほしい。

現在団塊の世代といわれる皆さんが、大量退職の時代に突入している。それらの世代の豊かな体験や知識、技能を活用していくことで、生き甲斐づくりだけではなく、地域づくり活動になっていく。HP作成やICTの活用に行っている人も多勢いる。社会教育の方から個人の方からと、双方からのアプローチと連携が進む体制づくりをしていかなくてはならない。

また、社会教育、ふるさと教育の推進では、これまで同様に、地域の人たちで作る諸団体との連携も非常に大切であるが、異種なる機関や施設との連携、ネットワークをいっそう拡大していく努力が求められる。

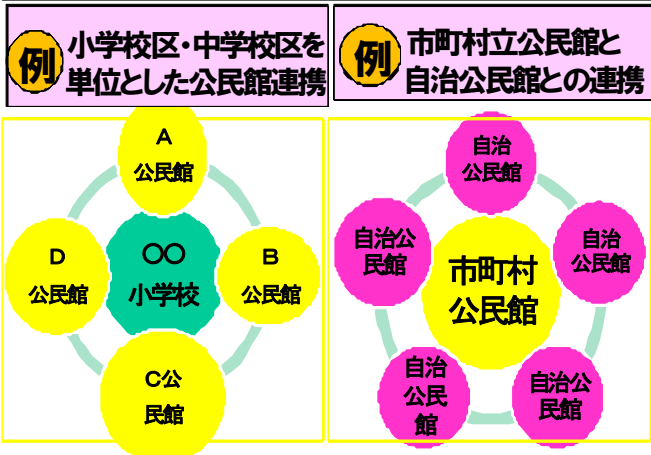
豊かにふるさと教育を推進していくためには、一つの公民館単位のエリア内で、限られた地域住民を対象とした事業だけでは限界がある。富山県公民館ふるさと教育推進事業では、町公連・市公連単位で、複数の公民館が協力して事業を進め、新たな事業が可能となり、大きな成果を残した。その実践例に学ぶ所は大である。様々な個人・団体・機関・行政各課と連携した事業は、町おこし、地域おこしにもつながっていく。

色々な団体とネットワーク



ふるさと理解 ふるさと意識

公民館同士の連携でふるさと教育の推進を

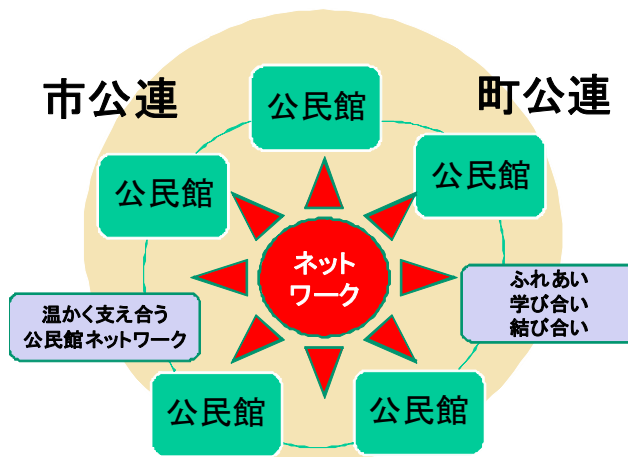


学校から地域をみたとき、現在では小中学校の統廃合がかなり進み、一つの小学校区に複数の公民館が存在しているケースが増えてきている。またそれぞれの市町村立公民館エリア内には、複数の町内会単位の自治公民館が併せて存在している。

子どもたちにとって身近な地域というのは、自治公民館単位の狭いエリアである。しかし同じ小学校に通う仲間として共通

のふるさと意識を育て、ふるさとへの愛着と誇りの気持ちを育てていくためには、小学校区を単位として、地域意識を広げ、その校区エリア内の人々が連携協力していくようにしていくことも考えていかななくてはならない。

豊かにふるさと教育を推進していくためには、これまでのように、①公民館の職員が中心・リーダーとなって事業の企画や運営をしていく②既存の団体に事業を委託する③いくつかの傘下の団体が集まって地区民運動会などの一つの事業を成功させていくといった、従来型の進め方だけではやはり限界がでてしまう。公民館自身が幅広く人材を求めていくことが大切である。例えば、優れた映像撮影技術を持った人を活用し、ふるさとの映像をデジタル化して残していく活動や、地域住民のにとって映像や写真をもとにHPを作成していくなど、公民館が苦手とする分野での人材活用が考えられる。またそこには、ICTふるさと学習推進員の新たな活躍の場も開けていく。また、ICTふるさと学習推進員も、生涯学習として自己の学習欲求を満足させるだけでなく、豊かな経験や技能を社会還元していく事が大切である。お互いに求め合う関係になってこそ、ウィンウィンの関係ができる。



(委員からの原稿を追加・編集)